

伊賀市介護予防日常生活圏域二一ズ調査 結果報告書（案）

令和 8 年 3 月

伊賀市

目次

第1部 日常生活圏域ニーズ調査	0
Ⅰ 調査の概要	1
Ⅱ 単純集計	2
Ⅲ. クロス集計による分析	60
Ⅳ. 高齢者の生活リスクに関する分析	70
第2部 在宅介護実態調査	77
Ⅰ 調査の概要	79
Ⅱ 単純集計	80
第3部 介護人材実態調査	97
Ⅰ 調査の概要	98
Ⅱ. 伊賀市介護保険事業計画に係る介護人材実態調査【介護施設・事業所用】	99
Ⅲ 介護保険事業計画策定に係る介護人材実態調査【対象者：通所サービス・施設サービスの介護職員】	113
Ⅳ 介護保険事業計画策定に係る介護人材実態調査【対象者：訪問介護を行う介護職員】 ..	122

第 1 部 日常生活圏域ニーズ調査

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、市の高齢者の状況等を的確に把握し、取り組むべき課題や高齢者福祉施策の方向性、サービス目標量等を定める、伊賀市第8次高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画を策定することを目的に実施したものです。

2 調査の方法

- ① 調査対象地域：伊賀市全域
- ② 調査対象者：伊賀市在住の65歳以上の方で要介護認定がない人及び
要支援1～2の人
- ③ 調査期間：令和7年12月～令和8年1月（調査基準日は令和7年11月1日）
- ④ 調査方法：調査票による本人記入方式、郵送配布・郵送回収による郵送調査

3 配布・回収数

有効配布数	回収数	回収率	白紙回答	有効回収数	有効回収率
5,000		%		3,042	60.8%

4 報告書の見方（注意事項）

- ① 文中のn数（number of cases）は、回答者数を表しています。
- ② 調査結果（グラフおよび表中）の比率は、その設問の回答者数（n数）を分母として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示しています。したがって、端数処理のため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問については、その設問の回答者数（n数）を分母として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ④ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- ⑤ 参考として代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答数の少ない属性についてのコメントは控えている場合があります。

Ⅱ 単純集計

1 回答者について

調査票を記入されたのはどなたですか（回答は1つ）【n=3,042】

「あて名のご本人が記入」が91.0%で最も多く、「ご家族が記入」が6.9%が続いています。

あて名のご本人が記入	91.0%
ご家族が記入	6.9%
その他	0.2%
無回答	1.9%

2 ご本人について

(1) 年齢（回答は1つ）【n=3,042】

「75～79歳」が29.9%で最も多く、「70～74歳」が20.8%が続いています。最も少ないのは「90歳以上」で3.8%です。

65～69歳	17.5%
70～74歳	20.8%
75～79歳	29.9%
80～84歳	17.3%
85～89歳	9.5%
90歳以上	3.8%
無回答	1.1%

(2) 性別（回答は1つ）【n=3,042】

「女性」が 54.1%で最も多く、「男性」が 44.8%が続いています。

男性	44.8%
女性	54.1%
その他	0.1%
無回答	1.1%

(3) 居住地域（回答は1つ）【n=3,042】

「上野支所管内」が 43.7%で最も多く、「伊賀支所管内」が 22.4%が続いています。最も少ないのは「島ヶ原支所管内」で 3.7%です。

上野支所管内	43.7%
伊賀支所管内	22.4%
島ヶ原支所管内	3.7%
阿山支所管内	9.2%
大山田支所管内	7.2%
青山支所管内	12.3%
無回答	1.5%

(4) 要支援・要介護認定等について（回答は1つ）【n=3,042】

「何も受けていない」が 91.3%で最も多く、「要支援1」が 4.2%が続いています。最も少ないのは「介護予防・日常生活支援総合事業（※）対象者」で 0.8%です。

何も受けていない	91.3%
介護予防・日常生活支援総合事業（※）対象者	0.8%
要支援1	4.2%
要支援2	2.3%
無回答	1.4%

※介護予防・日常生活支援総合事業とは…介護保険の認定を受けていなくても、一人ひとりの生活に合わせた介護予防のためのサービスを利用することができる

3 あなたのご家族や生活状況について

問1 家族構成を教えてください（回答は1つ）【n=3,042】

「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が39.2%で最も多く、「息子・娘との2世帯」が32.3%が続いています。最も少ないのは「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」で2.6%です。高齢の夫婦のみ、または子との同居が主流となっていることから、今後の高齢者世帯への支援体制の多様化が求められます。

1人暮らし	 16.2%
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	 39.2%
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	 2.6%
息子・娘との2世帯	 32.3%
その他	 8.5%
無回答	1.2%

問2 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか（回答は1つ）
【n=3,042】

「介護・介助は必要ない」が84.8%で最も多く、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が8.5%が続いています。最も少ないのは「現在、何らかの介護を受けている」で5.7%です。今後の介護ニーズの変化に備え、早めの情報提供やサポート体制の周知が重要です。

介護・介助は必要ない	 84.8%
何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	 8.5%
現在、何らかの介護を受けている （介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）	 5.7%
無回答	 1.1%

問 2-(1) 【問 2 で「介護・介助は必要ない」以外の方のみ】介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（いくつでも）【n=431】

「高齢による衰弱」が 23.9%で最も多く、「骨折・転倒」が 16.9%が続いています。最も少ないのは「腎疾患（透析）」で 2.3%です。高齢化に伴う衰弱や転倒予防への対策が今後さらに重要となることに留意する必要があります。

脳卒中（脳出血・脳梗塞など）	10.0%
心臓病	8.8%
がん（悪性新生物）	9.3%
呼吸器の病気（肺気腫・肺炎など）	4.9%
関節の病気（リウマチなど）	11.8%
認知症（アルツハイマー病など）	9.0%
パーキンソン病	3.7%
糖尿病	8.6%
腎疾患（透析）	2.3%
視覚・聴覚障害	9.7%
骨折・転倒	16.9%
脊椎損傷	6.3%
高齢による衰弱	23.9%
その他	13.7%
不明	1.4%
無回答	16.0%

問 2-(2) 【問 2 で「現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】主にどなたの介護、介助を受けていますか（いくつでも）【n=172】

「配偶者（夫・妻）」が 34.3%で最も多く、「娘」が 29.1%が続いています。家族内では配偶者や娘、息子が主な担い手となっていることから、これらの方々への支援や負担軽減策を検討する必要があります。

配偶者（夫・妻）	34.3%
息子	26.7%
娘	29.1%
子の配偶者	15.1%
孫	7.0%
兄弟・姉妹	0.0%
介護サービスのヘルパー	23.8%
その他	9.3%
無回答	3.5%

問3 今後、在宅生活の継続のために必要と思われる支援はありますか（いくつでも）
【n=3,042】

「災害時の手助け」が32.6%で最も多く、次いで「安否確認の声かけ・見守り」と「医師の往診や訪問看護などの医療サービス」が同率（29.5%）で続いています。さらに「外出支援などの移動サービス」（24.1%）や「ちょっとした買い物の代行」（21.7%）も一定の割合を占めています。災害時の支援に加え、日常の見守り・医療・移動といった生活を支えるサポートへのニーズが見られることから、地域での支援体制づくりやつながりの強化が課題となります。

安否確認の声かけ・見守り	29.5%
心配ごとなどの相談相手	15.4%
ちょっとした買い物の代行	21.7%
家事（掃除・洗濯・調理等）の手伝い	16.1%
外出の付添い	9.4%
ゴミ出しの手伝い	10.9%
医師の往診や訪問看護などの医療サービス	29.5%
介護を必要とする人の短時間の預かり	15.8%
認知症などの高齢者の見守り	15.8%
災害時の手助け	32.6%
外出支援などの移動サービス	24.1%
入院入所時の保証人	5.9%
蛍光灯の交換など高いところの作業や簡単な大工仕事	20.2%
布団など寝具の洗濯や乾燥	8.3%
緊急時、簡単に連絡できる装置の貸出	17.9%
財産や金銭の管理の支援	2.9%
特にない	20.7%
その他	2.0%
無回答	12.9%

問4 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか（回答は1つ）

【n=3,042】

「ふつう」が60.8%で最も多く、「やや苦しい」が21.6%が続いています。最も少ないのは「大変ゆとりがある」で1.1%です。全体として「ふつう」と感じている人が多い一方で、「やや苦しい」と感じる層や「大変苦しい」と回答する人も一定数いるため、支援の必要性や今後の変化に注意が必要です。

大変苦しい	6.4%
やや苦しい	21.6%
ふつう	60.8%
ややゆとりがある	8.7%
大変ゆとりがある	1.1%
無回答	1.4%

問5 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか（回答は1つ）【n=3,042】

「持家（一戸建て）」が92.8%で最も多く、「その他」が1.4%が続いています。最も少ないのは「民間賃貸住宅（一戸建て）」で0.4%です。持家（一戸建て）に居住する人が大多数を占めています。

持家（一戸建て）	92.8%
持家（集合住宅）	0.6%
公営賃貸住宅	1.2%
民間賃貸住宅（一戸建て）	0.4%
民間賃貸住宅（集合住宅）	1.3%
借家（個人から）	1.2%
その他	1.4%
無回答	1.1%

4 からだを動かすことについて

問6 階段を手すりや壁をつたわずに上っていますか（回答は1つ）【n=3,042】

「できるし、している」が52.5%で最も多く、次いで「できるけどしていない」が23.0%、「できない」が22.8%でした。階段を手すりや壁に頼らずに上れる人は約4分の3いる一方、約4分の1は手すりや壁なしでは上れないことがわかります。

できるし、している	52.5%
できるけどしていない	23.0%
できない	22.8%
無回答	1.7%

問7 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか（回答は1つ）【n=3,042】

「できるし、している」が71.0%で最も多く、「できない」が14.7%が続いています。「できるけどしていない」は12.9%です。何もつかまらずに立ち上がれる人は8割強いる一方、約1割半はできないことがわかります。

できるし、している	71.0%
できるけどしていない	12.9%
できない	14.7%
無回答	1.4%

問8 15分位続けて歩いていますか（回答は1つ）【n=3,042】

「できるし、している」が67.7%で最も多く、次いで「できるけどしていない」が20.4%、「できない」が10.6%でした。15分程度続けて歩ける人は約9割いる一方、約1割はできないことがわかります。

できるし、している	67.7%
できるけどしていない	20.4%
できない	10.6%
無回答	1.2%

問 9 軽い運動・体操を1週間に何日くらいしていますか（回答は1つ）【n=3,042】

「ほとんどしない」が36.1%で最も多く、「週2～4日」が31.3%が続いています。最も少ないのは「週1日」で13.3%です。取り組みの頻度が全体的に低い傾向が見られるため、定期的な実施に向けて動機づけや環境整備が求められます。

ほとんどしない	36.1%
週1日	13.3%
週2～4日	31.3%
週5日以上	17.8%
無回答	1.5%

問 10 過去1年間に転んだ経験がありますか（回答は1つ）【n=3,042】

「ない」が61.2%で最も多く、「1度ある」が25.6%が続いています。「何度もある」は12.1%です。過去1年間に転んだ経験がある人は37.7%で、約4割にのぼることがわかります。

何度もある	12.1%
1度ある	25.6%
ない	61.2%
無回答	1.1%

問 11 転倒に対する不安は大きいですか（回答は1つ）【n=3,042】

「やや不安である」が45.0%で最も多く、「あまり不安でない」が22.2%が続いています。最も少ないのは「不安でない」で12.6%です。転倒に不安がある人は63.9%と過半数を占めていることから、不安軽減に向けた情報提供や支援策の充実が求められます。

とても不安である	18.9%
やや不安である	45.0%
あまり不安でない	22.2%
不安でない	12.6%
無回答	1.3%

問 12 週に1回以上は外出していますか（回答は1つ）【n=3,042】

「週2～4回」が45.4%で最も多く、「週5回以上」が33.2%が続いています。最も少ないのは「ほとんど外出しない」で4.9%です。外出頻度が高い層が一定数いる一方、外出を控えている人にも配慮した支援策を検討することが重要です。

ほとんど外出しない	4.9%
週1回	15.5%
週2～4回	45.4%
週5回以上	33.2%
無回答	1.1%

問 13 昨年と比べて外出の回数が減っていますか（回答は1つ）【n=3,042】

「あまり減っていない」が42.7%で最も多く、「減っていない」が33.6%が続いています。最も少ないのは「とても減っている」で4.2%です。全体的に大きな減少を感じていない人が多い傾向にあり、今後も変化を注視しながら必要な支援策を検討することが重要です。

とても減っている	4.2%
減っている	18.4%
あまり減っていない	42.7%
減っていない	33.6%
無回答	1.1%

問 14 外出を控えていますか（回答は1つ）【n=3,042】

「いいえ」が78.9%で最も多く、「はい」が20.2%が続いています。今後は「はい」と回答した方の理由や背景を把握し、状況に応じたサポートや情報提供が求められます。

はい	20.2%
いいえ	78.9%
無回答	0.9%

問 14-(1) 【問 14 で「はい」（外出を控えている）の方のみ】外出を控えている理由は、次のどれですか（いくつでも）【n=616】

「足腰などの痛み」が 49.2%で最も多く、「交通手段がない」が 20.3%が続いています。最も少ないのは「障害（脳卒中の後遺症など）」で 2.3%です。外出の妨げとなる主な要因として身体的な痛みや移動手段の制約が挙げられるため、身体機能の維持や移動支援の充実が重要となります。

病気	11.7%
障害（脳卒中の後遺症など）	2.3%
足腰などの痛み	49.2%
トイレの心配（失禁など）	18.5%
耳の障害（聞こえの問題など）	10.4%
目の障害	6.8%
外での楽しみがない	16.2%
経済的に出られない	10.2%
交通手段がない	20.3%
その他	14.4%
無回答	2.9%

問 15 外出する際の移動手段は何ですか（いくつでも）【n=3,042】

「自動車（自分で運転）」が 72.1%で最も多く、「徒歩」が 35.3%が続いています。最も少ないのは「車いす」で 0.2%です。自家用車の利用が主流である一方、徒歩や補助器具の利用者も一定数見られるため、多様な移動手段への配慮が今後も求められます。

徒歩	35.3%
自転車	10.5%
バイク	4.1%
自動車（自分で運転）	72.1%
自動車（人に乗せてもらう）	26.3%
電車	11.1%
路線バス	5.3%
病院や施設のバス	1.5%
車いす	0.2%
電動車いす（カート）	0.4%
歩行器・シルバーカー	2.0%
タクシー	3.1%
その他	0.6%
無回答	2.2%

問 16 外出する際に困ることは何ですか（いくつでも）【n=3,042】

「特に困ることは無い」が45.1%で最も多く、次いで「交通機関が少ない」が27.8%、「道路、駅などに階段や段差が多い」が16.9%、「バスなど交通機関の乗り場が遠い」が13.1%、「坂道が多い」が10.1%で続きます。外出時に困りごとを感じない人が一定数いる一方で、困りごとの中心は「交通機関の利用しづらさ」と「段差などの移動環境」にあることがわかります。今後は、公共交通の利便性向上や乗り場までのアクセス支援、段差解消などのバリアフリー化といった、移動のハードルを下げる対策を地域の実情に応じて進めることが課題です。

道路、駅などに階段や段差が多い	16.9%
坂道が多い	10.1%
歩道が狭く電動カートなどが通れない	1.4%
交通機関が少ない	27.8%
バスなど交通機関の乗り場が遠い	13.1%
バスなど交通機関の乗り降りが難しい	4.7%
介助者がいない	1.8%
その他	3.2%
特に困ることは無い	45.1%
無回答	8.4%

5 食べるについて

問 17 BMI【n=3,042】

「標準（18.5 以上 25.0 未満）」が 66.8%で最も多く、「肥満（25.0 以上）」が 21.7%で続いています。「やせ（18.5 未満）」は 8.6%となっています。標準が約 3 分の 2 を占める一方で、やせ・肥満が合わせて約 3 割みられることから、低栄養やフレイル予防、生活習慣病予防など、状態に応じた体重・栄養管理支援を地域の実情に合わせて進めることが求められます。

やせ（18.5未満）	8.6%
標準（18.5以上25.0未満）	66.8%
肥満（25.0以上）	21.7%
無回答	2.9%

問 18 食事は自分で食べられますか（回答は1つ）【n=3,042】

「できる」が 98.4%で最も多く、「一部介助があればできる（おかずを小さく切ってもらうなど）」が 0.6%で続いています。最も少ないのは「できない」で 0.2%です。ほとんどの方が自立して対応できている状況がうかがえるため、今後も自立支援を継続しつつ、わずかに介助が必要な方への個別対応も検討することが重要です。

できる	98.4%
一部介助があればできる （おかずを小さく切ってもらうなど）	0.6%
できない	0.2%
無回答	0.9%

問 19 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（回答は1つ）【n=3,042】

「いいえ」が 68.4%で最も多く、「はい」が 29.8%でした。半年前に比べて固いものが食べにくくなったと感じている人は約 3 割いることがわかります。

はい	29.8%
いいえ	68.4%
無回答	1.8%

問 20 お茶や汁物などでむせることがありますか（回答は1つ）【n=3,042】

「いいえ」が70.3%で最も多く、「はい」が27.9%が続いています。お茶や汁物などでむせることがある人は約3割いることがわかります。

はい	27.9%
いいえ	70.3%
無回答	1.8%

問 21 口の渇きが気になりますか（回答は1つ）【n=3,042】

「いいえ」が68.3%で最も多く、「はい」が29.6%が続いています。回答の大半が「いいえ」となっていることから、多くの人が該当しないと感じている状況がうかがえます。

はい	29.6%
いいえ	68.3%
無回答	2.1%

問 22 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか（回答は1つ）【n=3,042】

「はい」が89.3%で最も多く、次いで「いいえ」が8.3%でした。歯磨きを毎日している人が大半を占める一方、毎日できていない人も一定数いることがわかります。今後は、未実施層に対して理由（身体的負担、習慣化の難しさ、支援の有無など）を把握し、必要に応じた声かけや支援につなげることが課題です。

はい	89.3%
いいえ	8.3%
無回答	2.5%

問 23 歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください（回答は1つ）【n=3,042】

「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が39.9%で最も多く、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が31.4%が続いています。最も少ないのは「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」で12.4%です。今後は自分の歯の本数と入れ歯の利用状況に応じた口腔ケア支援が重要です。

自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	12.4%
自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし	31.4%
自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用	39.9%
自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし	12.5%
無回答	3.9%

問 23-(1) 噛み合わせは良いですか（回答は1つ）【n=3,042】

「はい」が76.6%で最も多く、次いで「いいえ」が19.6%でした。噛み合わせが「良い」と感じている人が約8割いる一方、「良くない」と回答した人も約2割いることがわかります。今後は、「いいえ」と回答した層について、困りごとの有無や受診状況などを把握し、必要に応じて歯科受診の案内や相談機会の確保につなげることが課題です。

はい	76.6%
いいえ	19.6%
無回答	3.8%

問 23-(2) 【問 23 で「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】毎日入れ歯の手入れをしていますか（回答は 1 つ）【n=1,591】

「はい」が 87.7%で最も多く、「いいえ」が 7.2%が続いています。毎日入れ歯の手入れをしている人が大半を占める一方、実施していない人も一定数いることから、今後は、「いいえ」と回答した層について未実施の理由（手間・体力面、方法が分からない、支援の不足など）を把握し、手入れ方法の周知や必要に応じた支援につなげることが課題です。

はい	87.7%
いいえ	7.2%
無回答	5.1%

問 24 6 か月間で 2～3kg 以上の体重減少がありましたか（回答は 1 つ）【n=3,042】

「いいえ」が 82.5%で最も多く、「はい」が 12.5%が続いています。6 か月間で 2～3kg 以上の体重減少があった人は約 1 割で、多くは体重減少がないと回答しています。一方で一定数の該当者がいるため、「はい」と回答した層について、減少の背景（食事量・体調変化など）を把握し、必要に応じて相談・受診や栄養面の支援につなげることが課題です。

はい	12.5%
いいえ	82.5%
無回答	5.0%

問 25 どなたかと食事をとにもする機会がありますか（回答は1つ）【n=3,042】

「毎日ある」が63.6%で最も多く、次いで「年に何度かある」が11.1%、「月に何度かある」が10.8%でした。「ほとんどない」は6.6%で、「週に何度かある」は5.6%でした。誰かと食事をとにもする機会が日常的にある人が多い一方で、頻度が低い（特に「ほとんどない」）層も一定数いることがわかります。今後は、食事を共にする機会が少ない人が参加しやすい場づくりや、孤食になりやすい層への把握・支援が課題です。

毎日ある	63.6%
週に何度かある	5.6%
月に何度かある	10.8%
年に何度かある	11.1%
ほとんどない	6.6%
無回答	2.3%

6 毎日の生活について

問 26 物忘れが多いと感じますか（回答は1つ）【n=3,042】

「いいえ」が53.0%で最も多く、次いで「はい」が44.7%でした。物忘れが多いと感じていない人が半数を超える一方、感じている人も約4割強と少なくないことがわかります。今後は、「はい」と回答した層の困りごとの程度や日常生活への影響を把握し、相談先の周知や予防・支援につなげることが課題です。

はい	44.7%
いいえ	53.0%
無回答	2.2%

問 27 自分で電話番号を調べて、電話をかけていますか（回答は1つ）【n=3,042】

「はい」が89.5%で最も多く、「いいえ」が8.9%が続いています。大多数が「はい」と回答していることから、今後も同様の傾向が継続するか動向を注視することが重要です。

はい	89.5%
いいえ	8.9%
無回答	1.6%

問 28 スマートフォンを利用していますか（回答は1つ）【n=3,042】

「電話とメール（ライン）、さらにインターネットも利用している」が33.4%で最も多く、「電話とメール（ライン）を利用している」が28.7%が続いています。最も少ないのは「その他」で1.5%です。複数の通信手段を組み合わせ利用している人が多い傾向が見られるため、今後も多様なコミュニケーション方法への対応が求められます。

主に電話として利用している	21.1%
電話とメール(ライン)を利用している	28.7%
電話とメール(ライン)、さらにインターネットも利用している	33.4%
その他	1.5%
持っていない	12.9%
無回答	2.3%

問 29 今日が何月何日かわからない時がありますか（回答は1つ）【n=3,042】

「いいえ」が70.7%で最も多く、「はい」が27.7%が続いています。日付がわからない時がある人が約3割いるため、この層について状況の把握や、必要に応じた見守り・支援につなげることが課題です。

はい	27.7%
いいえ	70.7%
無回答	1.6%

問 30 その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか（回答は1つ）【n=3,042】

「困難なくできる」が90.7%で最も多く、「いくらか困難であるが、できる」が6.8%が続いています。最も少ないのは「ほとんど判断できない」で0.2%です。大多数が困難を感じず対応できている一方、ごく一部には支援が必要な状況も見受けられるため、個別のサポート体制の充実が求められます。

困難なくできる	90.7%
いくらか困難であるが、できる	6.8%
判断するときに、 他人からの合図や見守りが必要	0.6%
ほとんど判断できない	0.2%
無回答	1.6%

問 31 いつでも誰にでも、人に自分の考えをうまく伝えられますか（回答は1つ）

【n=3,042】

「困難なく伝えられる」が80.5%で最も多く、「いくらか困難であるが、伝えられる」が15.0%で続いています。最も少ないのは「ほとんど伝えられない」で0.4%です。多くの方が円滑に伝達できている一方、少数ながら困難を感じている層への支援策も検討が求められます。

困難なく伝えられる	80.5%
いくらか困難であるが、伝えられる	15.0%
あまり伝えられない	2.6%
ほとんど伝えられない	0.4%
無回答	1.6%

問 32 バスや電車や自家用車を使って1人で外出していますか（回答は1つ）

【n=3,042】

「できるし、している」が79.3%で最も多く、「できるけどしていない」が11.1%で続いています。最も少ないのは「できない」で7.7%です。1人で外出できる人は90.4%と大半を占める一方、できない人も一定数いることがわかります。今後は、「できるけどしていない」層や「できない」層に対し、移動手段や付き添い、外出先での不安軽減など、外出のハードルを下げる支援を検討することが課題です。

できるし、している	79.3%
できるけどしていない	11.1%
できない	7.7%
無回答	1.9%

問 33 自分で食品・日用品の買い物をしていますか（回答は1つ）【n=3,042】

「できるし、している」が80.6%で最も多く、「できるけどしていない」が14.5%で続いています。最も少ないのは「できない」で3.9%です。今後は、「できるけどしていない」層や「できない」層について、移動手段や体力面、支援の有無などの背景を把握し、必要に応じて買い物支援や代替手段の案内につなげることが課題です。

できるし、している	80.6%
できるけどしていない	14.5%
できない	3.9%
無回答	1.0%

問 34 自分で食事の用意をしていますか（回答は1つ）【n=3,042】

「できるし、している」が68.7%で最も多く、「できるけどしていない」が22.6%で続いています。最も少ないのは「できない」で7.7%です。全体として実践できている人が多数を占めていますが、できる環境にありながら実施していない層への働きかけが今後の課題となります。

できるし、している	68.7%
できるけどしていない	22.6%
できない	7.7%
無回答	1.1%

問 35 自分で請求書の支払いをしていますか（回答は1つ）【n=3,042】

「できるし、している」が83.5%で最も多く、「できるけどしていない」が12.2%で続いています。最も少ないのは「できない」で3.1%です。自分で請求書の支払いができる人は95.7%と大半を占める一方、できない人も一定数いることがわかります。

できるし、している	83.5%
できるけどしていない	12.2%
できない	3.1%
無回答	1.2%

問 36 自分で預貯金の出し入れをしていますか（回答は1つ）【n=3,042】

「できるし、している」が84.3%で最も多く、「できるけどしていない」が11.2%が続いています。最も少ないのは「できない」で3.6%です。自分で預貯金の出し入れができる人は95.5%と大半を占める一方、できない人も一定数いることがわかります。

できるし、している	84.3%
できるけどしていない	11.2%
できない	3.6%
無回答	0.9%

問 37 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか（回答は1つ）【n=3,042】

「はい」が91.1%で最も多く、「いいえ」が7.6%が続いています。多くの方が「はい」と回答している状況から、今後もこの傾向を維持できるような取り組みや、少数派の意見にも配慮した対応が求められます。

はい	91.1%
いいえ	7.6%
無回答	1.3%

問 38 新聞を読んでいますか（回答は1つ）【n=3,042】

「はい」が75.8%で最も多く、「いいえ」が23.1%が続いています。新聞を読んでいる人が約4分の3を占める一方、読んでいない人も約4分の1いることがわかります。

はい	75.8%
いいえ	23.1%
無回答	1.1%

問 39 本や雑誌を読んでいますか（回答は1つ）【n=3,042】

「はい」が68.9%で最も多く、「いいえ」が29.7%が続いています。本や雑誌を読んでいる人が約7割を占める一方、読んでいない人も約3割いることがわかります。

はい	68.9%
いいえ	29.7%
無回答	1.4%

問 40 健康についての記事や番組に関心がありますか（回答は1つ）【n=3,042】

「はい」が89.8%で最も多く、次いで「いいえ」が9.0%でした。健康に関する記事や番組に関心がある人が約9割を占めています。今後は高い関心を活かした情報提供を進めるとともに、関心が低い層にも届くよう、内容や媒体、伝え方を工夫することが課題です。

はい	89.8%
いいえ	9.0%
無回答	1.1%

問 41 友人の家を訪ねていますか（回答は1つ）【n=3,042】

「はい」が55.5%で最も多く、「いいえ」が43.3%が続いています。友人宅を訪ねている人が半数をやや上回る一方、訪ねていない人も4割強いることがわかります。今後は、「いいえ」と回答した層について外出状況や交流機会の有無を把握し、必要に応じて地域の交流の場や参加しやすい機会づくりにつなげることが課題です。

はい	55.5%
いいえ	43.3%
無回答	1.2%

問 42 家族や友人の相談にのっていますか（回答は1つ）【n=3,042】

「はい」が76.9%で最も多く、「いいえ」が21.6%が続いています。家族や友人の相談にのっている人が約4分の3を占める一方、相談にのっていない人も2割強いることがわかります。今後は、相談機会が少ない層の状況を把握し、必要に応じて地域でのつながりづくりや相談先の周知につなげることが課題です。

はい	76.9%
いいえ	21.6%
無回答	1.5%

問 43 病人を見舞うことができますか（回答は1つ）【n=3,042】

「はい」が87.0%で最も多く、「いいえ」が11.4%が続いています。病人を見舞うことができる人が大半を占める一方、できない人も1割強いることがわかります。

はい	87.0%
いいえ	11.4%
無回答	1.5%

問 44 若い人に自分から話しかけることがありますか（回答は1つ）【n=3,042】

「はい」が77.9%で最も多く、「いいえ」が20.5%が続いています。若い人に自分から話しかけることがある人が約8割を占める一方、話しかけない人も2割程度いることがわかります。今後は、「いいえ」と回答した層について交流機会の有無など状況を把握し、必要に応じて世代間交流の場づくりや参加しやすい機会の提供を検討することが課題です。

はい	77.9%
いいえ	20.5%
無回答	1.5%

問 45 趣味はありますか（回答は1つ）【n=3,042】

「趣味あり」が68.8%で最も多く、「思いつかない」が27.1%が続いています。趣味がある人が約7割を占める一方、趣味が思いつかない人も約3割いることがわかります。多様な価値観や余暇の過ごし方を尊重したサポートが求められます。

趣味あり	68.8%
思いつかない	27.1%
無回答	4.0%

問 46 生きがいがありますか（回答は1つ）【n=3,042】

「生きがいあり」が56.0%で最も多く、「思いつかない」が37.2%が続いています。生きがいを感じている人が半数を超えていますが、一定の割合で生きがいを見いだせていない人も存在します。今後は、交流や活動参加など、生きがいにつながる機会に触れやすくする取り組みや、相談・支援につなぐ体制づくりが課題です。

生きがいあり	56.0%
思いつかない	37.2%
無回答	6.9%

問 47 以下のような会・グループなどにどのくらいの頻度で参加していますか

問 47-1 ボランティアのグループ【n=3, 042】

「参加していない」が 58.5%で最も多く、「年に数回」が 9.0%が続いています。最も少ないのは「週 4 回以上」で 0.5%です。ボランティアのグループに参加していない人が過半数を占め、参加している場合も「年に数回」から「月 1～3 回」が中心となっています。

週 4 回以上	0.5%
週 2～3 回	1.1%
週 1 回	1.1%
月 1～3 回	7.2%
年に数回	9.0%
参加していない	58.5%
無回答	22.6%

問 47-2 スポーツ関係のグループやクラブ【n=3, 042】

「参加していない」が 55.5%で最も多く、「週 2～3 回」が 6.8%が続いています。最も少ないのは「週 4 回以上」で 2.1%です。スポーツ関係のグループやクラブに参加していない人が過半数を占め、参加している場合も頻度は分散していることがわかります。多くの方が活動に参加していないことから、参加を促すための働きかけや魅力的なプログラムの検討が必要と考えられます。

週 4 回以上	2.1%
週 2～3 回	6.8%
週 1 回	4.6%
月 1～3 回	6.6%
年に数回	5.1%
参加していない	55.5%
無回答	19.3%

問 47-3 趣味関係のグループ【n=3,042】

「参加していない」が50.5%で最も多く、「月1～3回」が14.7%が続いています。最も少ないのは「週4回以上」で1.3%です。趣味関係のグループに参加していない人が半数を占め、参加している場合は「月1～3回」や「年に数回」など低頻度が中心で、週単位の参加は少ないことがわかります。

週4回以上	1.3%
週2～3回	3.1%
週1回	3.3%
月1～3回	14.7%
年に数回	8.5%
参加していない	50.5%
無回答	18.5%

問 47-4 学習・教養サークル【n=3,042】

「参加していない」が65.6%で最も多く、「年に数回」が5.5%が続いています。最も少ないのは「週4回以上」で0.4%です。学習・教養サークルは参加していない人が約3分の2を占め、参加している場合も「年に数回」「月1～3回」が中心で、週単位の参加はごく少数であることがわかります。

週4回以上	0.4%
週2～3回	0.6%
週1回	0.7%
月1～3回	4.1%
年に数回	5.5%
参加していない	65.6%
無回答	23.2%

問 47-5 介護予防のための通いの場（ふれあいいきいきサロンや介護予防サロン）
【n=3,042】

「参加していない」が 62.7%で最も多く、「月 1～3 回」が 9.2%が続いています。最も少ないのは「週 4 回以上」で 0.3%です。介護予防のための通いの場は参加していない人が約 6 割を占め、参加している場合も「月 1～3 回」や「年に数回」が中心で、週単位の参加は少ないことがわかります。全体として参加頻度が低い傾向が見られるため、参加機会や動機づけを高める取り組みが求められます。

週 4 回以上	0.3%
週 2～3 回	0.9%
週 1 回	1.6%
月 1～3 回	9.2%
年に数回	5.5%
参加していない	62.7%
無回答	19.7%

問 47-6 老人クラブの行事【n=3,042】

「参加していない」が 52.5%で最も多く、「年に数回」が 22.9%が続いています。最も少ないのは「週 4 回以上」で 0.1%です。老人クラブの行事は参加していない人が過半数を占め、参加している場合は「年に数回」が中心で、月 1 回以上の参加は少ないことがわかります。参加意欲を高める仕組みや周知方法の工夫が今後の課題となります。

週 4 回以上	0.1%
週 2～3 回	0.4%
週 1 回	0.5%
月 1～3 回	4.5%
年に数回	22.9%
参加していない	52.5%
無回答	19.0%

問 47-7 町内会・自治会の行事【n=3,042】

「年に数回」が 39.0%で最も多く、「参加していない」が 33.3%が続いています。最も少ないのは「週 4 回以上」で 0.4%です。年数回の参加が中心である一方、参加していない人も 3 割強いることから、参加しやすい仕組みづくりや機会の提供が課題です。

週 4 回以上	0.4%
週 2 ～ 3 回	0.5%
週 1 回	0.7%
月 1 ～ 3 回	8.9%
年に数回	39.0%
参加していない	33.3%
無回答	17.3%

問 47-8 収入のある仕事【n=3,042】

「参加していない」が 50.3%で最も多く、「週 4 回以上」が 15.2%が続いています。最も少ないのは「週 1 回」で 1.5%です。収入のある仕事をしていない人が半数を占める一方、週 4 回以上の就労が一定数いることがわかります。

週 4 回以上	15.2%
週 2 ～ 3 回	8.3%
週 1 回	1.5%
月 1 ～ 3 回	3.1%
年に数回	3.2%
参加していない	50.3%
無回答	18.4%

問 48 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味などのグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に『参加者』として参加してみたいと思いますか（回答は1つ）【n=3,042】

「参加してもよい」が48.0%で最も多く、「参加したくない」が28.0%が続いています。最も少ないのは「既に参加している」で7.9%です。参加に前向きな人が一定数いる一方、消極的な層も存在するため、参加を促すための工夫や情報提供が重要となります。

ぜひ参加したい	13.7%
参加してもよい	48.0%
参加したくない	28.0%
既に参加している	7.9%
無回答	2.5%

問 49 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味などのグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に『企画・運営（お世話役）』として参加してみたいと思いますか（回答は1つ）【n=3,042】

「参加したくない」が49.4%で最も多く、「参加してもよい」が36.9%が続いています。最も少ないのは「ぜひ参加したい」で4.7%です。参加への消極的な意向が目立つため、参加の動機付けや参加しやすい環境づくりが今後の課題となります。

ぜひ参加したい	4.7%
参加してもよい	36.9%
参加したくない	49.4%
既に参加している	5.1%
無回答	3.9%

7 就労について

問 50 現在のあなたの就労状況はどれですか（いくつでも）【n=3,042】

「引退した」が53.1%で最も多く、「非常勤（パート・アルバイト等）」が18.7%が続いています。最も少ないのは「求職中」で1.1%です。引退している人が過半数を占める一方、非常勤や自営業など何らかの形で就労している人も一定数いることがわかります。今後は、就労を希望する層（求職中を含む）の状況把握と、希望に応じた多様な働き方・就労機会につなげる支援が課題です。

職に就いたことが無い	5.4%
引退した	53.1%
常勤（フルタイム）	6.6%
非常勤（パート・アルバイト等）	18.7%
自営業	13.0%
求職中	1.1%
その他	2.8%
無回答	4.4%

問 51 【問 50 で「引退した」を選択した方がお答えください】 あなたはいつ引退しましたか【n=1,616】

「2020～2024 年（令和 2～6 年）」が 20.4%で最も多く、「2015～2019 年（平成 27 年～令和元年）」が 16.9%が続いています。次いで「2010～2014 年（平成 22～26 年）」が 14.6%、「2005～2009 年（平成 17～21 年）」が 12.5%となっており、2005 年以降の引退が約 7 割（68.8%）を占めています。一方、古い年代ほど割合は小さくなっています。近年（特に 2010 年代以降）に引退した層が厚いことから、退職後の生活移行期における社会参加・健康づくりの支援を重点化しつつ、経過年数に応じた支援につなげることが求められます。

1945～1949年（昭和20～24年）	0.1%
1950～1954年（昭和25～29年）	0.0%
1955～1959年（昭和30～34年）	0.2%
1960～1964年（昭和35～39年）	0.4%
1965～1969年（昭和40～44年）	0.6%
1970～1974年（昭和45～49年）	0.4%
1975～1979年（昭和50～54年）	0.7%
1980～1984年（昭和55～59年）	0.9%
1985～1989年（昭和60年～平成元年）	2.1%
1990～1994年（平成2～6年）	3.5%
1995～1999年（平成7～11年）	5.9%
2000～2004年（平成12～16年）	8.3%
2005～2009年（平成17～21年）	12.5%
2010～2014年（平成22～26年）	14.6%
2015～2019年（平成27年～令和元年）	16.9%
2020～2024年（令和2～6年）	20.4%
2025年（令和7年）	4.4%
無回答	8.3%

8 たすけあいについて

問 52 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人は誰ですか（いくつでも）【n=3,042】

「配偶者」が 58.2%で最も多く、「友人」が 43.2%が続いています。最も少ないのは「その他」で 1.6%です。心配事や愚痴を聞いてくれる人は配偶者や友人、子どもなど身近な関係に集中している一方、近隣は比較的少なく、心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない人も一定数いることがわかります。今後は、身近な人以外にもつながれる相談先（地域の窓口・見守り・居場所等）の周知や、心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない層への把握と支援が課題です。

配偶者	58.2%
同居の子ども	22.9%
別居の子ども	38.4%
兄弟姉妹・親戚・親・孫	28.6%
近隣	15.3%
友人	43.2%
その他	1.6%
そのような人はいない	3.2%
無回答	1.7%

問 53 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人は誰ですか（いくつでも）
【n=3,042】

「配偶者」が 54.9%で最も多く、「友人」が 45.0%が続いています。最も少ないのは「その他」で 1.4%です。話を聞いてあげる相手は配偶者や友人、家族に集中する傾向がある一方、近隣は 2 割弱にとどまり、聞いてあげる相手がいない人も一定数いることがわかります。今後は、近隣を含む地域でのつながりを広げる機会づくりや、相手がいない層への把握と参加しやすい場づくりが課題です。

配偶者	54.9%
同居の子ども	19.3%
別居の子ども	34.5%
兄弟姉妹・親戚・親・孫	31.6%
近隣	19.2%
友人	45.0%
その他	1.4%
そのような人はいない	4.9%
無回答	2.5%

問 54 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人は誰ですか
(いくつでも) 【n=3,042】

「配偶者」が 61.3%で最も多く、「別居の子ども」が 32.3%が続いています。最も少ないのは「その他」で 1.4%です。看病や世話の担い手は配偶者や子どもなど家族が中心で、友人・近隣は少ないことがわかります。また、看病や世話をしてくれる人がいない人も一定数いるため、家族以外の支援先の周知や、緊急時に頼れる体制づくりが課題です。

配偶者	61.3%
同居の子ども	28.1%
別居の子ども	32.3%
兄弟姉妹・親戚・親・孫	12.5%
近隣	2.0%
友人	3.8%
その他	1.4%
そのような人はいない	5.1%
無回答	1.6%

問 55 反対に、あなたが看病や世話をしてあげる人は誰ですか（いくつでも）
【n=3,042】

「配偶者」が 65.1%で最も多く、「別居の子ども」が 24.2%が続いています。最も少ないのは「その他」で 1.7%です。看病や世話をしてあげる相手は配偶者や子どもなど家族が中心で、友人・近隣は少ないことがわかります。また、看病や世話をしてあげる相手がない人も約 1 割いるため、家族以外にも支え合える関係づくりや、地域でのつながりを広げる機会づくりが課題です。

配偶者	65.1%
同居の子ども	23.9%
別居の子ども	24.2%
兄弟姉妹・親戚・親・孫	23.9%
近隣	3.7%
友人	6.9%
その他	1.7%
そのような人はいない	9.5%
無回答	2.8%

問 56 日ごろの生活で不安に思っていることはありますか（いくつでも）【n=3,042】

「自分の病気など健康状態のこと」が 66.8%で最も多く、「家族の病気など健康状態のこと」が 52.5%が続いています。最も少ないのは「その他」で 1.3%です。健康不安に加えて、災害や生活維持（家事・経済）に関する不安も一定程度みられるため、健康づくり・受診/相談先の周知、災害時の備えや支援体制の案内、生活支援や見守りにつなげる仕組みづくりが課題です。

自分の病気など健康状態のこと	66.8%
家族の病気など健康状態のこと	52.5%
仕事を続けられなくなる	8.2%
食事の支度や掃除など家事ができなくなる	27.1%
いざというときに頼れる人がいない	6.0%
火事や盗難にあう	26.2%
地震、水害などの自然災害にあう	45.3%
経済的に苦しくなる	24.5%
財産管理や相続	7.8%
強引な訪問販売や電話セールス、押し売り、詐欺	14.6%
生活意欲がなくなる	15.0%
その他	1.3%
特になし	7.3%
無回答	3.1%

問 57 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（いくつでも）【n=3,042】

「そのような人はいない」が 36.1%で最も多く、「地域包括支援センター・市役所(行政)」が 24.7%が続いています。最も少ないのは「その他」で 0.8%です。家族や友人以外に相談相手がない人が 3 割強いる一方、相談先としては行政や社会福祉協議会・民生委員、医療職が一定の役割を担っていることがわかります。身近に相談できる人がいない割合が高いため、相談窓口や支援機関の周知・つなぎ方の整備など、地域で相談につながりやすい体制づくりが課題です。

自治会・町内会・老人クラブ	11.7%
社会福祉協議会・民生委員	21.9%
ケアマネジャー	7.2%
医師・歯科医師・看護師	21.3%
地域包括支援センター・市役所(行政)	24.7%
その他	0.8%
そのような人はいない	36.1%
無回答	9.7%

問 58 家族や友人・知人との会話の頻度はどれくらいですか（回答は1つ）【n=3,042】

「ほとんど毎日ある」が73.4%で最も多く、「2～3日に1回ある」が8.9%が続いています。最も少ないのは「年に数回ある」で1.8%です。家族や友人・知人との会話が日常的にある人が大半を占める一方、会話頻度が低い人（「年に数回ある」「ほとんどない」）も一定数いることがわかります。今後は、会話が少ない層への把握や、地域の居場所・交流機会につながりやすくする支援が課題です。

ほとんど毎日ある	73.4%
2～3日に1回ある	8.9%
週に1回ある	5.9%
月に1～2回ある	4.5%
年に数回ある	1.8%
ほとんどない	1.9%
無回答	3.6%

問 59 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（いくつでも）【n=3,042】

「近所・同じ地域の人」が62.3%で最も多く、「趣味や関心が同じ友人・知人」が32.5%、「仕事での同僚・元同僚」が32.3%が続いています。最も少ないのは「その他」で2.2%です。地域のつながりが大きな割合を占めているため、今後も地域コミュニティの活性化や多様な交流機会の創出が重要と考えられます。

近所・同じ地域の人	62.3%
幼なじみ	10.9%
学生時代の友人・知人	16.6%
仕事での同僚・元同僚	32.3%
趣味や関心が同じ友人・知人	32.5%
ボランティア等の活動での友人・知人	8.4%
その他	2.2%
いない	7.5%
無回答	3.8%

問 60 今ではなく、将来のことで不安に思うことはありますか。（いくつでも）
【n=3,042】

「家族や知人がいるので、不安はない」が 63.1%で最も多く、「あなたが亡くなったあとの葬儀や供養、お墓の管理に関すること」が 13.1%で続いています。最も少ないのは「あなたが住まいの借り換え等をする際の保証人や緊急連絡先になってくれる人がいないこと」で 1.2%です。不安がないとする人が多数を占める一方で、葬儀・供養や遺品整理、相続など「亡くなった後」に関する不安や、入院時の身の回りの支援に関する不安も一定数みられます。今後は、家族・知人に頼れない場合も含め、相談先や備え（手続き・支援制度等）の周知を進めることが課題です。

あなたが入院や手術、入所の際に保証人や緊急連絡先になってくれる人がいないこと	4.3%
あなたが住まいの借り換え等をする際の保証人や緊急連絡先になってくれる人がいないこと	1.2%
あなたが入院したとき身の回りの世話（家に忘れてきたものをとりにいく等）をしてくれる人がいないこと	9.6%
あなたが亡くなったあとの死亡届など諸手続きに関すること	5.6%
あなたが亡くなったあとの金銭管理、財産や相続に関すること	9.5%
あなたが亡くなったあとの部屋や遺品の片づけに関すること	12.3%
あなたが亡くなったあとのペットの飼育に関すること	2.8%
あなたが亡くなったあとの葬儀や供養、お墓の管理に関すること	13.1%
その他	2.4%
家族や知人がいるので、不安はない	63.1%
無回答	6.8%

9 健康について

問 61 現在のあなたの健康状態はいかがですか（回答は1つ）【n=3,042】

「まあよい」が72.3%で最も多く、「あまりよくない」が14.5%が続いています。最も少ないのは「よくない」で2.4%です。健康状態を「とてもよい」「まあよい」とする人は80.3%と多数を占める一方、「あまりよくない」「よくない」は16.9%と一定数いることがわかります。今後は、健康状態が良くないと感じる層の状況把握や、相談・受診につながる支援の充実が課題です。

とてもよい	8.0%
まあよい	72.3%
あまりよくない	14.5%
よくない	2.4%
無回答	2.9%

問 62 あなたは、現在どの程度幸せですか（「とても不幸」を 0 点、「とても幸せ」を 10 点として、当てはまる点にチェックをいれてください）【n=3,042】

「8 点」が 24.4%で最も多く、「7 点」が 16.4%が続いています。最も少ないのは「0 点」で 0.6%です。7～10 点の比較的高い点数が 67.6%と全体の約 3 分の 2 を占める一方、0～4 点の低い点数も 7.0%みられます。今後は、低い点数を付けた層の状況把握や支援につなげる工夫が課題です。

0点	0.6%
1点	0.7%
2点	0.6%
3点	2.2%
4点	2.9%
5点	15.3%
6点	7.8%
7点	16.4%
8点	24.4%
9点	10.7%
10点	16.1%
無回答	2.4%

問 63 この 1 か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか（回答は 1 つ）【n=3,042】

「いいえ」が 63.9%で最も多く、「はい」が 33.2%が続いています。この 1 か月間に気分が沈んだり、ゆううつになったことがある人が約 3 割いることがわかります。今後は、「はい」と回答した層について状況や困りごとを把握し、必要に応じて相談先の周知や支援につなげることが課題です。

はい	33.2%
いいえ	63.9%
無回答	2.9%

問 64 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか（回答は1つ）【n=3,042】

「いいえ」が76.3%で最も多く、「はい」が19.9%が続いています。この1か月間に「興味がわかない、心から楽しめない」と感じる人がよくあった人は約2割いることがわかります。今後は、「はい」と回答した層について状況を把握し、必要に応じて相談先の周知や支援につなげることが課題です。

はい	19.9%
いいえ	76.3%
無回答	3.7%

問 65 お酒は飲みますか（回答は1つ）【n=3,042】

「もともと飲まない」が36.6%で最も多く、「ほとんど飲まない」が26.2%が続いています。最も少ないのは「時々飲む」で13.3%です。飲酒しない人は62.8%と過半数を占める一方、飲酒する人も35.7%いることがわかります。今後は、飲酒頻度の高い層への健康面の情報提供に加え、飲まない層も含めた生活習慣全体への働きかけを検討することが課題です。

ほぼ毎日飲む	22.4%
時々飲む	13.3%
ほとんど飲まない	26.2%
もともと飲まない	36.6%
無回答	1.6%

問 66 タバコは吸っていますか（回答は1つ）【n=3,042】

「もともと吸っていない」が59.1%で最も多く、「吸っていたがやめた」が30.2%で続いています。最も少ないのは「時々吸っている」で1.0%です。非喫煙者と禁煙者が合わせて89.3%を占める一方、現在喫煙している人は8.9%いることがわかります。今後は、喫煙を継続している層への健康面の情報提供や支援につなげることが課題です。

ほぼ毎日吸っている	7.9%
時々吸っている	1.0%
吸っていたがやめた	30.2%
もともと吸っていない	59.1%
無回答	1.7%

問 67 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（いくつでも）【n=3,042】

「高血圧」が48.4%で最も多く、「高脂血症（脂質異常）」が16.1%が続いています。最も少ないのは「パーキンソン病」で0.7%です。生活習慣病の予防・重症化予防（健診受診、生活習慣改善、受診継続等）の取り組みを進めるとともに、複数の疾患を抱える可能性も踏まえた継続的な支援が課題です。

ない	14.0%
高血圧	48.4%
脳卒中（脳出血・脳梗塞など）	3.3%
心臓病	9.9%
糖尿病	14.4%
高脂血症（脂質異常）	16.1%
呼吸器の病気（肺炎や気管支炎など）	6.1%
胃腸・肝臓・胆のうの病気	6.9%
腎臓・前立腺の病気	8.4%
筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症など）	10.5%
外傷（転倒・骨折など）	3.6%
がん（悪性新生物）	5.7%
血液・免疫の病気	1.7%
うつ病	0.8%
認知症（アルツハイマー病など）	1.0%
パーキンソン病	0.7%
目の病気	13.1%
耳の病気	5.9%
その他	6.8%
無回答	4.7%

問 68 かかりつけ医及びかかりつけ歯科医はいますか（回答は1つ）【n=3,042】

「両方いる」が66.4%で最も多く、「かかりつけ医はいる」が21.5%が続いています。最も少ないのは「両方いない」で3.4%です。かかりつけ医または歯科医のいずれか（または両方）を持つ人は94.8%と大半を占める一方、両方いない人も一定数いることがわかります。今後は、かかりつけを持たない層に対して受診先の情報や相談窓口を周知し、継続的な健康管理につなげることが課題です。

両方いる	66.4%
かかりつけ医はいる	21.5%
かかりつけ歯科医はいる	6.9%
両方いない	3.4%
無回答	1.8%

10 介護保険制度について

問 69 介護保険制度は、介護保険サービスや介護予防事業の利用が多くなれば、それだけ保険料も上がることになります。あなたは、介護サービスや介護予防事業の水準と保険料についてどのように考えますか（回答は1つ）【n=3,042】

「保険料もサービスも今程度でよい」が54.8%で最も多く、「サービスの水準を今よりおさえても、保険料が安い方がよい」が21.5%が続いています。最も少ないのは「その他」で6.5%です。半数超が現状維持を選ぶ一方で、保険料負担とサービス水準の考え方は「負担を抑えたい」「充実を望む」に一定程度分かれていることがわかります。今後は、選択の前提となるサービス内容や費用の見通しが伝わるよう、分かりやすい情報提供や説明の工夫が課題です。

今より保険料が高くて、サービスが充実している方がよい	11.9%
保険料もサービスも今程度でよい	54.8%
サービスの水準を今よりおさえても、保険料が安い方がよい	21.5%
その他	6.5%
無回答	5.3%

問 70 今後、あなた自身に介護が必要になった場合、どのようにしたいですか（回答は1つ）【n=3,042】

「自宅で、家族の介護の負担を極力少なくし、介護保険サービスなどを中心に暮らしたい」が34.5%で最も多く、「自宅で、家族の介護を中心に、介護保険サービスなどを利用しながら暮らしたい」が18.7%で続いています。最も少ないのは「その他」で1.4%です。在宅で介護保険サービスを活用しながら暮らしたい人が過半数を占める一方、施設入所を希望する人や「わからない」とする人も一定数います。今後は、在宅サービスの利用しやすさや家族負担の軽減に向けた支援に加え、選択に迷う層へ分かりやすい情報提供や相談機会を整えることが課題です。

自宅で、家族だけの介護により暮らしたい	5.0%
自宅で、家族の介護を中心に、介護保険サービスなどを利用しながら暮らしたい	18.7%
自宅で、家族の介護の負担を極力少なくし、介護保険サービスなどを中心に暮らしたい	34.5%
高齢者向けの住宅に入居して、介護保険サービスなどを利用しながら暮らしたい	9.4%
特別養護老人ホームやグループホームなど介護保険の施設に入所して暮らしたい	12.9%
わからない	14.6%
その他	1.4%
無回答	3.5%

問 71 介護が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活するための在宅医療や在宅介護が課題となっていますが、どのような整備が特に必要と思いますか（回答は1つ）【n=3,042】

「定期的に訪問診療や訪問看護が受けられる体制」が 33.4%で最も多く、「在宅介護や在宅医療の相談窓口の充実」が 19.2%で続いています。最も少ないのは「看取りについての相談窓口」で 1.5%です。在宅で生活するためには、訪問診療・訪問看護を安定的に受けられる体制整備へのニーズが最も高く、次いで相談窓口の充実が求められていることがわかります。今後は、訪問系サービスの提供体制と相談窓口の周知・強化に加え、24時間対応や緊急時の入院体制など切れ目のない支援につなげる仕組みづくりが課題です。

在宅介護や在宅医療の相談窓口の充実	19.2%
定期的に訪問診療や訪問看護が受けられる体制	33.4%
24時間対応の在宅医療体制	13.1%
容体急変時や必要時の入院体制	12.5%
医療・介護関係機関の連携強化	9.5%
看取りについての相談窓口	1.5%
その他	2.2%
無回答	8.6%

問 72 在宅医療や在宅介護について、家族や身近な人と話し合いなどをしたことがありますか（回答は1つ）【n=3,042】

「ない」が 52.0%で最も多く、「ある」が 24.4%で続いています。「今後する予定」は 20.4%となっています。在宅医療や在宅介護について家族や身近な人と話し合った経験がない人が半数を占める一方、今後話し合う予定の人も2割いることがわかります。今後は、話し合いのきっかけづくりや進め方の情報提供、相談先の案内などにより、未実施層・予定層の行動を後押しすることが課題です。

ある	24.4%
ない	52.0%
今後する予定	20.4%
無回答	3.2%

11 認知症の方や家族への支援について

問 73 あなたは認知症の症状があると思われますか、又は家族に認知症の症状がある人がいますか（回答は1つ）【n=3,042】

「いいえ」が84.0%で最も多く、「はい」が13.2%が続いています。認知症の症状があると思われる人、または家族に認知症の症状がある人がいると回答した人は約1割いることがわかります。今後は、「はい」と回答した層が必要な支援や相談先につながるよう、情報提供や相談体制の周知を進めることが課題です。

はい	13.2%
いいえ	84.0%
無回答	2.8%

問 74 認知症に関する相談窓口を知っていますか（回答は1つ）【n=3,042】

「いいえ」が67.2%で最も多く、「はい」が29.8%が続いています。認知症に関する相談窓口を「知っている」人は約3割にとどまり、「知らない」人が約7割を占めています。今後は、相談窓口の周知や案内方法の工夫により、必要なときに相談につながりやすくすることが課題です。

はい	29.8%
いいえ	67.2%
無回答	3.0%

問 75 認知症の心配がある時、かかりつけ医や地域包括支援センターなどに相談できることを知っていますか（回答は1つ）【n=3,042】

「いいえ」が49.1%で最も多く、「はい」が47.9%が続いています。認知症の心配があるときに相談できることを知っている人と知らない人がほぼ同程度であることがわかります。今後は、知らない層に向けた相談先の周知や案内を強化し、必要時に相談につながりやすくすることが課題です。

はい	47.9%
いいえ	49.1%
無回答	3.1%

問 76 「成年後見制度」※を知っていますか（回答は1つ）【n=3,042】

「聞いたことがある」が37.5%で最も多く、「知っている」が31.4%が続いています。最も少ないのは「知らない」で28.3%です。成年後見制度について「知っている」「聞いたことがある」と回答した人は68.9%と約7割を占める一方、「知らない」人も約3割いることがわかります。今後は、制度の認知が十分でない層に向けて、わかりやすい周知や相談先の案内を進めることが課題です。

知っている	31.4%
聞いたことがある	37.5%
知らない	28.3%
無回答	2.8%

※成年後見制度とは、精神上の障害（知的障害・精神障害・認知症など）により判断能力が十分でない方が不利益を被ることのないように家庭裁判所に申立てをして、その方を援助してくれる人を選任する制度です。

問 77 認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、どのようなことが重要だと思いますか（いくつでも）【n=3,042】

「医療・介護・地域が連携した早期発見、早期治療のしくみづくり」が56.0%で最も多く、「介護保険の施設やサービスの充実」が52.6%が続いています。最も少ないのは「その他」で1.6%です。認知症になっても地域で暮らし続けるために、医療・介護・地域の連携や、介護サービスの充実への期待が特に高いことがわかります。今後は、連携体制や相談支援の整備を進めるとともに、住民理解の啓発や地域の支え合いの仕組みを広げていくことが課題です。

地域住民への正しい理解の啓発	38.8%
地域で支えるためのボランティアなどのしくみづくり	24.9%
医療・介護・地域が連携した早期発見、早期治療のしくみづくり	56.0%
介護保険の施設やサービスの充実	52.6%
相談支援体制の充実	37.6%
介護者家族への交流会や相談会などによる支援	17.4%
当事者同士の交流会や居場所づくり	15.6%
成年後見制度の啓発・相談	7.1%
若年性認知症患者への支援	10.8%
その他	1.6%
無回答	7.1%

問 78 あなたは認知症について、どのようなイメージをお持ちですか（いくつでも）
【n=3,042】

「高齢者でなくても認知症になる可能性がある」が 63.1%で最も多く、「認知症は治療により、進行を遅らせたり、症状を軽くできる可能性がある」が 62.1%で続いています。最も少ないのは「その他」で 1.0%です。認知症に関する理解が広がっている一方で、さらなる情報提供や啓発活動の充実が望まれます。

認知症は病気である	39.6%
認知症は予防できる可能性がある	36.7%
現状では、予防や治療が難しい	24.7%
認知症は治療により、進行を遅らせたり、症状を軽くできる可能性がある	62.1%
認知症が重度化すると普通の生活が送れなくなる	40.3%
認知症になっても残された能力を活かしてその人らしく生活を送ることは可能である	33.8%
高齢者でなくても認知症になる可能性がある	63.1%
認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない	55.9%
高齢者になれば誰もがなる病気である	15.1%
その他	1.0%
無回答	4.2%

問 79-(1) 伊賀市では、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるよう、さまざまな事業を行っています。あなたは「ひとり歩き高齢者等見守り支援事業※」についてご存じですか（回答は1つ）【n=3,042】

「知らない」が 80.5%で最も多く、「知っている」が 16.0%で続いています。認知度の向上を図るためには、より効果的な情報発信や周知活動の強化が求められます。

知っている	16.0%
知らない	80.5%
無回答	3.4%

※外出に不安のある高齢者がGPS装置を携帯することで、緊急時に家族が高齢者の居場所を確認することができます。高齢者を介護しているご家族に対して「GPS（居場所を知らせる装置）」の利用費用の一部を助成する制度です。

問 79-(2) 問 79-(1)でたずねた「ひとり歩き高齢者等見守り支援事業」について、利用
したいと思いますか（回答は1つ）【n=3,042】

「利用したい」が 56.8%で最も多く、「利用したくない」が 29.8%が続いています。利用
意向の高さがうかがえるため、今後は利用者の要望や期待に応えられるようなサービス設
計や情報提供が求められます。

利用したい	56.8%
利用したくない	29.8%
無回答	13.3%

12 今後の高齢者施策について

問 80 市が取り組むべき高齢者の施策として、今後特に充実させてほしいことは何ですか（3 つまで）【n=3, 042】

「在宅の高齢者を支える福祉サービスの充実」が 42.3%で最も多く、「高齢者を介護している家族などへの支援」が 29.0%が続いています。最も少ないのは「その他」で 0.8%です。在宅生活を支える支援と家族介護者支援への要望が特に大きい一方、移動や施設整備など生活基盤に関するニーズも高いことがわかります。今後は、高齢者本人だけでなく、支える家族や地域全体への支援の重要性に目を向けた施策が求められます。

生きがいづくり・地域活動参加への支援	13.0%
就労支援	5.1%
在宅の高齢者を支える福祉サービスの充実	42.3%
特別養護老人ホームや老人保健施設の整備	26.4%
健康管理・健康づくりへの支援	11.5%
声かけや見守りなど一人暮らし高齢者への支援	21.0%
介護予防対策の充実	7.4%
認知症高齢者への支援	9.6%
高齢者虐待に対する支援	1.6%
高齢者を介護している家族などへの支援	29.0%
地域のボランティア活動・組織の支援	3.9%
高齢者の人権・財産などを守る相談窓口の充実	1.6%
移動手段の確保	27.9%
高齢者向け住宅の整備	6.7%
防犯対策・悪質商法対策	6.2%
災害対策	6.3%
地域をささえる人材づくり	7.3%
その他	0.8%
特にない	2.2%
無回答	13.6%

Ⅲ. クロス集計による分析

本章では、アンケート調査結果について、回答者の属性や生活状況の違いによる傾向を把握するため、クロス集計による分析を行いました。

本分析では、「年齢」「家族構成」「運動頻度」「健康状態」「事業対象者・要支援認定」の5つの軸に着目し、それぞれの区分ごとに生活行動や意識の違いを比較しました。また、単なる割合の比較にとどまらず、統計的手法（カイ二乗検定およびクラメールのV）を用いて、差の有無やその大きさを確認し、分析の客観性を確保しています。

これにより、生活行動の違いが「身体機能」「生活環境」「主観的な健康認識」など、どの要因に影響されているかを多角的に把握し、今後の施策検討に資する知見を整理しました。

1. 年齢（6 区分を 3 区分に集約）によるクロス集計

問 32 バスや電車等を利用した外出では、高齢層では「1人で外出している」と回答した割合が約 48.2%であるのに対し、若年層では 80～90%となっており、約 40 ポイントの差がみられます。

問 15 外出の手段では、若年層では自家用車の利用が約 50%を占める一方、高齢層では約 20%程度にとどまり、送迎や同乗による移動が増加しています。移動手段の選択において年齢による制約がみられます。

問 7 椅子からの立ち上がりでは「何もつかまらずに立ち上がれる」と回答した割合は、若年層で約 80%、高齢層で約 50%と、30 ポイント程度の差がみられます。身体機能の低下が年齢とともに進行していることが確認されます。

問 70 今後の介護に対する考えでは、年齢が高い方が「自宅で、家族だけの介護により暮らしたい」と答えた人の割合が高くなっている一方、「高齢者向けの住宅に入居して、介護保険サービスなどを利用しながら暮らしたい」「特別養護老人ホームなど介護保険の施設に入所して暮らしたい」と答えた人の割合は若い人の方が高くなっています。

		65～74歳	75～84歳	85歳以上
問32バスや電車や自家用車を使って1人で外出していますか	できるし、している	 90.9%	 81.7%	 48.2%
	できるけどしていない	 6.9%	 12.2%	 21.9%
	できない	 2.3%	 6.1%	 29.9%

		65～74歳	75～84歳	85歳以上
問15外出する際の 移動手段は何です か	徒歩	 20.2%	 20.3%	 21.2%
	自転車	 6.5%	 6.0%	 5.1%
	その他	0.2%	0.2%	1.3%
	自動車（自分で運転）	 48.0%	 42.3%	 21.1%
	自動車（人に乗せてもらう）	 11.4%	 15.3%	 27.0%
	バイク	2.5%	2.5%	1.6%
	タクシー	0.7%	2.1%	4.2%
	車いす	0.1%	0.1%	0.1%
	電車	 8.0%	 5.8%	 4.4%
問7椅子に座った 状態から何もつか まらずに立ち上が っていますか	できるし、している	 83.0%	 70.3%	 46.3%
	できるけどしていない	 11.1%	 13.9%	 15.4%
	できない	 5.9%	 15.8%	 38.2%
問70今後、あなた 自身に介護が必要 になった場合、ど のようにしたいで すか	自宅で、 家族だけの介護により 暮らしたい	4.0%	4.8%	9.3%
	自宅で、家族の介護を中心に 、介護保険サービスなどを利用 しながら暮らしたい	 16.3%	 21.4%	 20.7%
	自宅で、家族の介護の負担を 極力少なくし、介護保険サー ビスなどを中心に暮らしたい	 36.2%	 36.3%	 33.4%
	高齢者向けの住宅に入居して 、介護保険サービスなどを利用 しながら暮らしたい	 11.9%	 8.4%	 8.5%
	特別養護老人ホームやグルー プホームなど介護保険の施設 に入所して暮らしたい	 14.0%	 13.1%	 12.4%
	その他	1.2%	1.7%	1.0%
	わからない	 16.2%	 14.3%	 14.5%

2. 家族構成とのクロス集計

問 52 の悩みや心配事を相談できる人で、単身世帯では別居中の子どもや友人、兄弟姉妹親戚の比率がそれ以外より高い一方で、「相談できる人がいない」と回答した割合が4.9%と、同居世帯の0.8%、その他の1.2%と比較して高くなっています。

問 12 週に1回以上の外出について、単身世帯では週5回以上外出している割合が27.6%で、夫婦2人暮らしやその他の34.8%よりも約7ポイント低くなっており、生活環境による外出機会の違いが確認されます。

問 25 誰かと食事をする頻度は、単身世帯では「ほとんどない」と回答した割合が約19.2%に達する一方、同居世帯では3～5%程度となっており、大きな差がみられます。

		1人暮らし	夫婦2人暮らし	その他世帯構成
問52あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人は誰ですか	配偶者	1.6%	39.2%	23.8%
	同居の子ども	0.5%	1.4%	23.2%
	別居の子ども	29.3%	21.1%	11.9%
	友人	28.9%	19.5%	19.1%
	兄弟姉妹・親戚・親・孫	21.8%	11.1%	13.4%
	近隣	11.8%	6.4%	6.6%
	その他	1.2%	0.5%	0.8%
	そのような人はいない	4.9%	0.8%	1.2%
問12週に1回以上は外出していますか	ほとんど外出しない	5.6%	3.4%	6.2%
	週1回	19.5%	14.2%	15.3%
	週2～4回	47.3%	47.6%	43.6%
	週5回以上	27.6%	34.8%	34.8%
問25どなたかと食事をする機会がありますか	毎日ある	5.4%	76.8%	77.0%
	週に何度かある	12.5%	3.4%	5.4%
	月に何度かある	36.9%	6.8%	5.4%
	年に何度かある	26.0%	9.9%	6.9%
	ほとんどない	19.2%	3.1%	5.3%

3. 運動頻度（問 9）3 区分とのクロス集計

問 12 週の外出をたずねる設問とのクロス集計では、週 5 日以上運動をする人は週 5 回以上外出する割合が 50.3%に対して、運動をほとんどしない人は 28.2%で約 20 ポイントの差があります。

問 61 現在の健康状態は、週 5 日以上運動をする人は「とてもよい」と回答した人の割合 15.1%に対し、「ほとんどしない」と答えた人は 5.8%で約 10 ポイント低くなっています。

問 48 地域活動への参加意向では、週 5 日以上運動をする人では「ぜひ参加したい」と答えた人の割合は 15.0%に対して、「ほとんどしない」と答えたは、8.1%と約 7 ポイント低くなっています。

		ほとんど しない	週 1 ～4日	週 5 日以上
問12週に1回以上は外出 していますか	ほとんど外出しない	9.6%	2.2%	1.8%
	週 1 回	22.3%	12.7%	9.8%
	週 2 ～ 4 回	39.9%	53.6%	38.1%
	週 5 回以上	28.2%	31.5%	50.3%
問61現在のあなたの健康 状態はいかがですか (回答は1つ)	とてもよい	5.8%	7.4%	15.1%
	まあよい	71.5%	77.4%	73.3%
	あまりよくない	18.7%	13.3%	10.7%
	よくない	4.0%	1.8%	0.9%
問48地域住民の有志に よって、健康づくり活 動や趣味などのグルー プ活動を行って、いき いきした地域づくりを 進めるとしたら、あな たはその活動に『参加 者』として参加してみ たいと思いますか	ぜひ参加したい	8.1%	18.0%	15.0%
	参加してもよい	47.1%	51.2%	49.1%
	参加したくない	39.6%	21.0%	26.1%
	既に参加している	5.2%	9.8%	9.8%

4. 健康状態（問 61）とのクロス集計

問 2 介護・介助の必要性では、健康状態が「良くない」と回答した層では介助が必要と答えた人の割合は 45.2%であり、「とてもよい」と答えた人の 94.6%に対して約 50 ポイント低くなっています。

問 32 外出状況では、健康状態が「とても良い」と答えた人は「できるし、している」と答えた人が 89.0%だったのに対し、「よくない」と答えた人は 42.5%と約 50 ポイント近くの差があります。

問 7 椅子にすわった状態からの立ち上がりでは、健康状態が「とてもよい」と答えた人は 94.6%に対して、「よくない」と答えた人は 36.1%と約 60 ポイント低くなっています。

問 15 外出手段では、「とてもよい」と答えた人は「自動車（自分で運転）」と答えた人が 42.9%に対して、「よくない」と答えた人は 29.9%と 10 ポイント以上低く、「自動車（人に乗せてもらう）」と答えた人が 34.6%おり、健康状態がよくないと自立した移動手段がとれず、送迎を人に依存する傾向がうかがえます。

		とても よい	まあよい	あまり よくない	よくない
問2あなたは、 普段の生活で どなたかの 介護・介助が 必要ですか	何らかの介護・ 介助は必要だが、 現在は受けていない	2.9%	6.0%	20.4%	27.4%
	介護・介助は必要ない	94.6%	90.0%	67.7%	45.2%
	現在、何らかの介護を 受けている	2.5%	4.0%	11.9%	27.4%
問32バスや電 車や自家用車 を使って1人 で外出してい ますか	できるし、している	89.0%	84.2%	66.8%	42.5%
	できるけどしていない	8.9%	10.3%	16.0%	24.7%
	できない	2.1%	5.5%	17.2%	32.9%

		とても よい	まあよい	あまり よくない	よくない
問7椅子に座 った状態から 何もつかまら ずに立ち上が っていますか	できるし、している	94.6%	76.0%	46.8%	36.1%
	できるけどしていない	2.9%	12.8%	19.7%	16.7%
	できない	2.5%	11.2%	33.6%	47.2%
問15外出する 際の移動手段 は何ですか	徒歩	22.6%	20.8%	17.8%	15.0%
	自転車	10.4%	5.8%	5.3%	3.7%
	バイク	2.8%	2.6%	1.8%	0.0%
	自動車（自分で運転）	42.9%	43.4%	34.9%	29.9%
	自動車 （人に乗せてもらう）	9.2%	13.9%	22.1%	34.6%
	電車	9.4%	6.4%	6.1%	1.9%
	路線バス	1.2%	3.2%	3.6%	2.8%
	タクシー	0.9%	1.6%	2.9%	4.7%

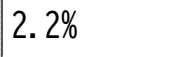
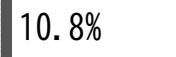
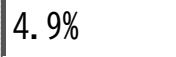
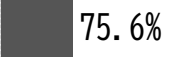
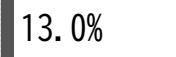
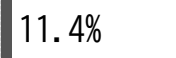
5. 事業対象者・要支援認定者とのクロス集計

問 2 介助の必要性では、事業対象者・要支援認定者は、約 50%が介助を必要とする一方、未認定では約 10%にとどまり、40 ポイント以上の差がみられます。

問 32 外出については、事業対象者・要支援認定者では単独外出が 43.3%に対し、未認定では約 84.3%と、約 40 ポイント低くなっています。

問 7 椅子に座った状態からの立ち上がりでは、事業対象者・要支援認定者では「できない」と答えた人が約 40%に対して、未認定では 4.9%と約 35 ポイント低くなっています。

問 15 外出手段では、「自動車（自分で運転）」と答えた人は、事業対象者・要支援認定者は 16.1%に対して、未認定では 44.0%であり、移動制約の違いが明確に表れています。

		何も受けていない	事業対象・要支援1・2
あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか	介護・介助は必要ない	 90.2%	33.0%
	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	 7.6%	19.5%
	現在、何らかの介護を受けている	 2.2%	47.4%
バスや電車や自家用車を使って1人で外出していますか	できるし、している	 84.3%	43.3%
	できるけどしていない	 10.8%	17.1%
	できない	 4.9%	39.6%
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できるし、している	 75.6%	30.7%
	できるけどしていない	 13.0%	13.5%
	できない	 11.4%	55.8%

		何も受けて いない	事業対象・ 要支援1・2
問15外出する 際の移動手段 は何ですか	徒歩	20.6%	18.4%
	自転車	6.4%	1.8%
	バイク	2.5%	1.6%
	自動車（自分で運転）	44.0%	16.1%
	自動車 （人に乗せてもらう）	13.9%	30.9%
	電車	6.7%	3.9%
	路線バス	3.0%	3.4%
	病院や施設のバス	0.4%	6.0%
	車いす	0.1%	0.5%
	電動車いす（カート）	0.2%	1.3%
	歩行器・シルバーカー	0.6%	7.8%
	タクシー	1.4%	7.0%
	その他	0.2%	1.3%

6. クロス集計から読み取れること

要支援認定の有無による差は大きく、外出、移動、基本動作などの生活機能に顕著な制約がみられました。

- 年齢が高くなるほど、身体機能や移動手段に一定の制約がみられる傾向が確認されました。
- 家族構成によって、外出頻度、交流機会、食事などの日常行動に違いがみられ、生活環境が行動に大きく影響していることが示されました。
- 健康状態は、身体機能と日常行動の中間的な要素として関連しており、主観的な健康感が行動に影響を及ぼしている可能性がうかがえました。
- 運動頻度は、他の要因と比べると関連が弱く、特定の属性だけの課題ではなく、生活環境や運動機会の有無に左右される側面が大きいと考えられます。
- 意識や意欲に関する設問では大きな差がみられず、行動の違いは意識の差よりも、身体機能、移動手段、生活環境などの制約条件によって生じている可能性が高いことが確認されました。

今後の施策では、意識啓発だけでなく、移動支援、外出機会の創出、地域交流の場の確保など、「実際に行動できる条件を整える」視点が重要であると考えられます。

IV. 高齢者の生活リスクに関する分析

1. 分析の目的と手法

本章では、伊賀市日常生活圏域ニーズ調査の結果より、高齢者の生活リスクを4つの次元（フレイル、孤立、認知、在宅継続困難）でスコア化し、その構造と傾向を分析します。各リスク群の定義とスコア化の基準は以下の通りです。

(1) フレイルリスク群

以下の12項目のうち、6項目以上該当する者を「フレイルリスク群」と定義します。

分類	対象設問番号	採点基準（該当条件）
身体機能	問6 階段	「3 できない」と回答
身体機能	問7 立ち上がり	「3 できない」と回答
身体機能	問8 15分歩行	「3 できない」と回答
運動・転倒	問9 運動	「4 ほとんどしない」と回答
運動・転倒	問10 転倒経験	「1 何度もある」と回答
運動・転倒	問11 転倒不安	「3 やや大きい」「4 とても大きい」と回答
外出	問12 外出頻度	「1 ほとんど外出しない」と回答
外出	問13 外出減少	「1 とても減っている」「2 減っている」と回答
外出	問14 外出控え	「1 はい」と回答
栄養・口腔	問19 固いもの	「1 はい」と回答
栄養・口腔	問20 むせ	「1 はい」と回答
栄養・口腔	問24 体重減少	「1 はい」と回答

(2) 孤立リスク群

以下の7項目のうち、4項目以上該当する者を「孤立リスク群」と定義します。

分類	対象設問番号	採点基準（該当条件）
会話・交流	問 58 会話頻度	「4 月に1～2回」「5 年に数回」「6 ほとんどない」と回答
会話・交流	問 59 よく会う人	「8 いない」と回答
支援ネットワーク	問 52 愚痴聞く人	「8 そのような人はいない」と回答
支援ネットワーク	問 54 看病者	「8 そのような人はいない」と回答
社会参加	問 47-1～8	全項目無回答（いずれの活動にも参加していない）
生きがい・趣味	問 45 趣味	「2 ない」と回答
生きがい・趣味	問 46 生きがい	「2 ない」と回答

(3) 認知リスク群

以下の「認知症状」4項目のうち2項目以上、かつ「IADL 低下」3項目のうち1項目以上に該当する者を「認知リスク群」と定義します。

分類	対象設問番号	採点基準（該当条件）
認知症状	問 26 物忘れ	「1 はい」と回答
認知症状	問 29 日付	「1 はい」と回答
認知症状	問 30 判断能力	「3 誰かの合図が必要」「4 ほとんどできない」と回答
認知症状	問 31 意思伝達	「3 あまりうまく伝えられない」「4 ほとんど無理」と回答
IADL 低下	問 35 支払い	「3 できない」と回答
IADL 低下	問 36 預金	「3 できない」と回答
IADL 低下	問 37 書類	「2 書けない」と回答

(4) 在宅継続困難群

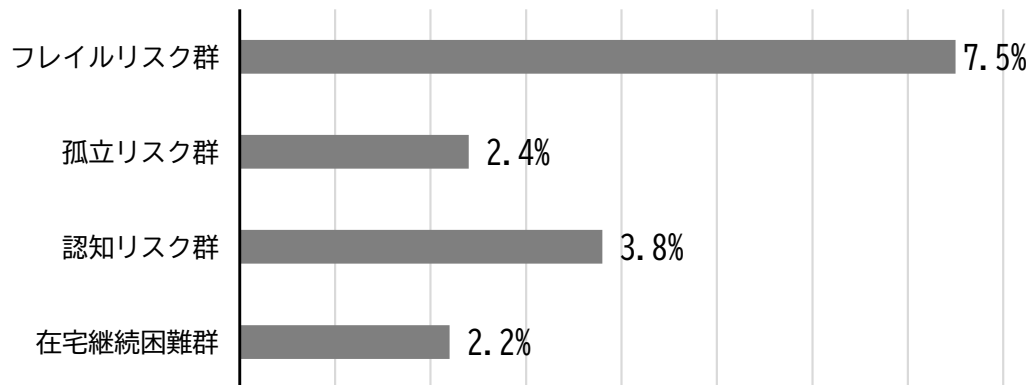
以下の9項目のうち、4項目以上該当する者を「在宅継続困難群」と定義します。

分類	対象設問番号	採点基準（該当条件）
IADL 低下	問 32 一人外出	「3 できない」と回答
IADL 低下	問 33 買い物	「3 できない」と回答
IADL 低下	問 34 食事準備	「3 できない」と回答
IADL 低下	問 35 支払い	「3 できない」と回答
IADL 低下	問 36 預金	「3 できない」と回答
支援不足	問 54 看病者	「8 そのような人はいない」と回答
支援不足	問 57 相談先	「7 そのような人はいない」と回答
住環境・世帯	問 1 家族構成	「1 一人暮らし」と回答
住環境・世帯	問 4 経済状況	「1 大変苦しい」「2 やや苦しい」と回答

2. 全体傾向とリスク構造

全体のうち、最も割合が高いのは「フレイルリスク群」で7.5%（228人）でした。次いで「在宅継続困難群」が4.4%（135人）、「認知リスク群」が3.8%（115人）、「孤立リスク群」が2.4%（73人）となっています。

高リスク者割合（%）



リスクの重複状況を見ると、全体の約1割（13.0%）が何らかの高リスクを抱えており、そのうち約3割が複数のリスクを併発しています。類型別では「身体フレイル型」（4.9%）が最も多く、次いで「認知・生活支援型」（2.7%）、「孤立不安型」（1.7%）となっています。

図4-1 リスク重複数の分布

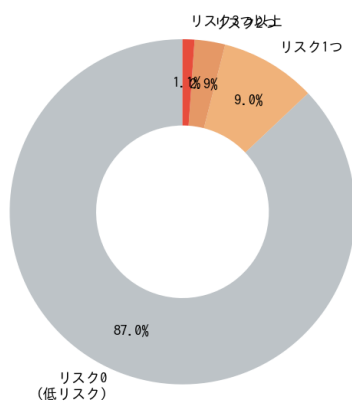
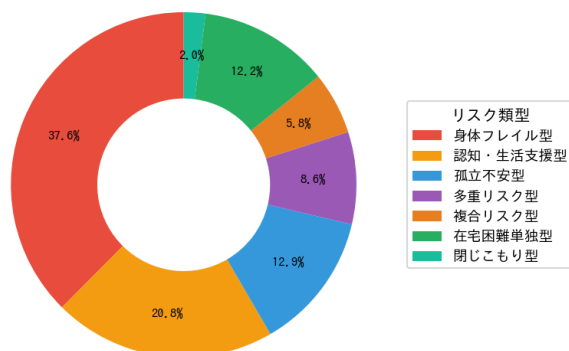


図4-2 高リスク類型の内訳
(低リスク型を除く394人)

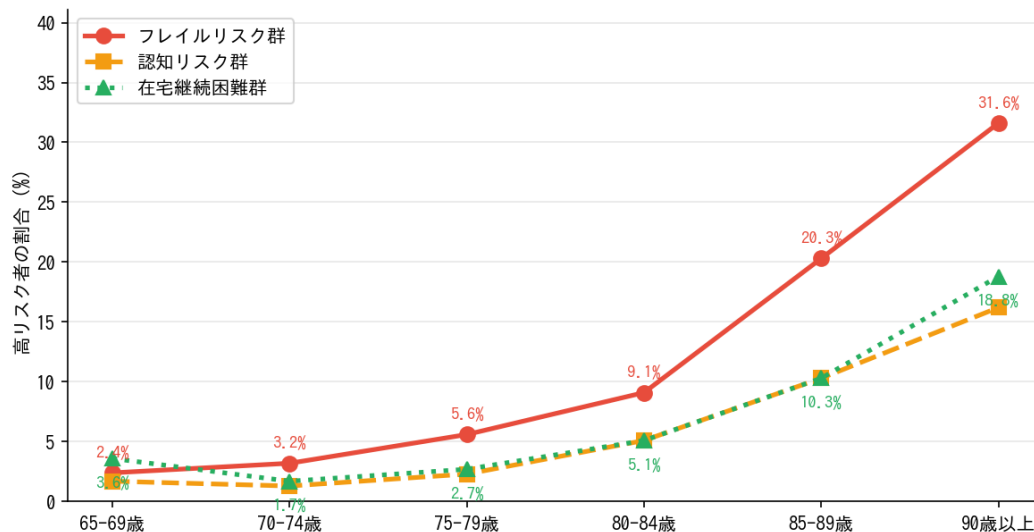


3. 各リスク群の詳細分析

(1) 年齢別の傾向

年齢が上がるにつれて全てのリスクが上昇しますが、特に 80 代後半から「フレイルリスク」が急増し（85-89 歳で 20.3%、90 歳以上で 31.6%）、それに伴い「認知リスク」「在宅継続困難」も上昇する傾向が顕著です。

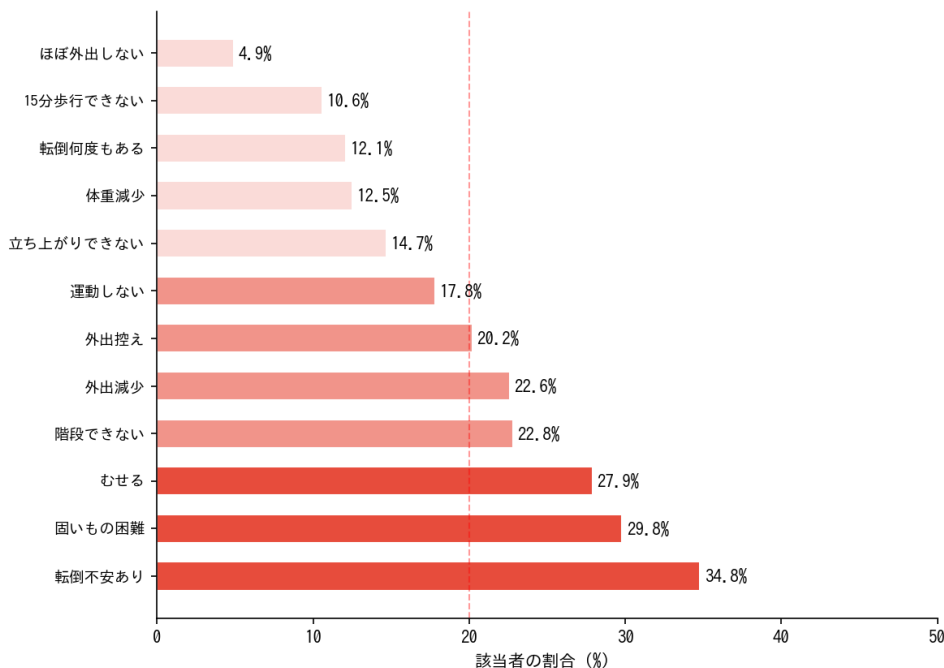
図2 年齢別リスク群の割合



(2) フレイルリスクの構成要因

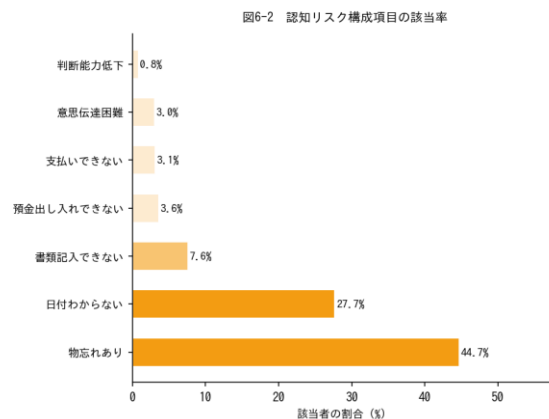
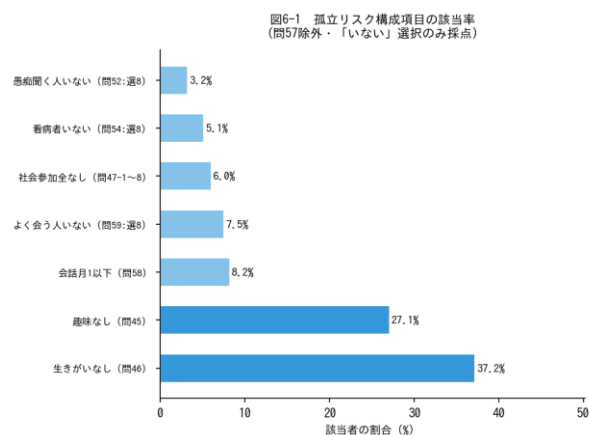
フレイルリスクを構成する項目のうち、該当率が高いのは「転倒不安あり」（34.8%）、「固いもの困難」（29.8%）、「むせる」（27.9%）でした。口腔機能の低下が身体的フレイルの先行指標となっている可能性が示唆されます。

図3 フレイルリスク構成項目の該当率



(3) 孤立・認知リスクの構成要因

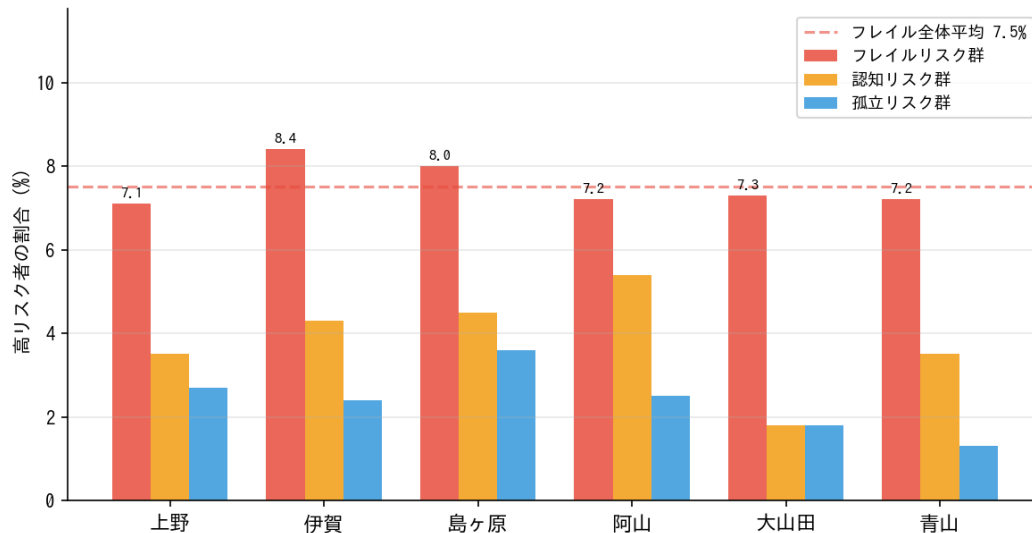
孤立リスクでは「生きがいなし」(37.2%)、「趣味なし」(27.1%)といった心理的側面の該当率が高くなっています。認知リスクでは「物忘れあり」(44.7%)、「日付わからない」(27.7%)が高いものの、IADL 低下(書類記入困難など)を伴う実質的な高リスク者は3.8%に留まっています。



4. 地域別の特徴と今後の方向性

地域別に見ると、伊賀地域（8.4%）と島ヶ原地域（8.0%）でフレイルリスクが全体平均（7.5%）を上回っています。また、島ヶ原地域は孤立リスク（4.5%）も他地域より高く、地域的な課題が複合している可能性があります。

図5 地域別リスク群の割合



5. 今後の施策の方向性

- **オーラルフレイル対策の強化：** 固いものが食べにくい、むせるといった口腔機能の低下が3割弱に見られます。これを入り口とした早期のフレイル予防介入が効果的です。
- **80代後半に向けた包括的支援：** 85歳を境にフレイル・認知・在宅継続困難のリスクが急増します。この年代に対する生活支援（買い物・移動）と見守り体制の強化が急務です。
- **心理的孤立へのアプローチ：** 物理的な支援者の不在よりも、「生きがい」「趣味」の喪失による心理的孤立の割合が高くなっています。通いの場や社会参加の促進を通じた居場所づくりが求められます。

第2部 在宅介護実態調査

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、市の高齢者の状況等を的確に把握し、取り組むべき課題や高齢者福祉施策の方向性、サービス目標量等を定める、伊賀市第8次高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画を策定することを目的に実施したものです。

2 調査の方法

- ① 調査対象地域：伊賀市全域
- ② 調査対象者：伊賀市在住の介護保険による要介護認定(要介護1～5)を受けている在宅の方とその介護者の方
- ③ 調査期間：令和7年12月～令和8年1月（調査基準日は令和7年11月1日）
- ④ 調査方法：調査票による本人記入方式、郵送配布・郵送回収による郵送調査

3 配布・回収数

有効配布数	回収数	回収率	白紙回答	有効回収数	有効回収率
		%		347	%

4 報告書の見方（注意事項）

- ① 文中のn数（number of cases）は、回答者数を表しています。
- ② 調査結果（グラフおよび表中）の比率は、その設問の回答者数（n数）を分母として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示しています。したがって、端数処理のため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問については、その設問の回答者数（n数）を分母として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ④ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- ⑤ 参考として代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答数の少ない属性についてのコメントは控えている場合があります。

Ⅱ 単純集計

回答者について

A票を回答された方はどなたですか（複数選択可）【n=347】

「主な介護者となっている家族・親族」が 67.4%で最も多く、「調査対象者本人」が 23.1%で続いています。最も少ないのは「その他」で 0.3%です。

調査対象者本人	 23.1%
主な介護者となっている家族・親族	 67.4%
主な介護者以外の家族・親族	 3.5%
調査対象者のケアマネジャー	 5.2%
その他	0.3%
無回答	 6.6%

A 票 調査対象者ご本人について

A 問 1 世帯類型について、ご回答ください（1 つを選択）【n=347】

「その他」が 49.3%で最も多く、「単身世帯」が 25.1%、「夫婦のみ世帯」が 23.9%で続いています。

単身世帯	 25.1%
夫婦のみ世帯	 23.9%
その他	 49.3%
無回答	 1.7%

A 問 2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（1 つを選択）【n=347】

「ほぼ毎日ある」が 59.1%で最も多く、「ない」が 13.8%、「週に1～2日ある」が 12.7%で続いています。最も少ないのはです。介護の頻度が高い人が多い状況が見受けられるため、日常的な支援や負担軽減策の検討が重要となります。

ない	 13.8%
家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない	 6.6%
週に1～2日ある	 12.7%
週に3～4日ある	 4.3%
ほぼ毎日ある	 59.1%
無回答	 3.5%

A 問 3 主な介護者の方は、どなたですか（1 つを選択）【n=287】

「子」が 53.0%で最も多く、「配偶者」が 24.7%が続いています。家族内での役割分担が「子」や「配偶者」に集中している状況がうかがえます。

配偶者	 24.7%
子	 53.0%
子の配偶者	 14.3%
孫	 0.7%
兄弟・姉妹	 1.4%
その他	 2.8%
無回答	 3.1%

A 問 4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください（1 つを選択）【n=287】

「女性」が 66.2%で最も多く、「男性」が 30.0%が続いています。介護は依然として女性が中心的な役割を担っている状況がうかがえます。

男性	 30.0%
女性	 66.2%
その他	 0.3%
無回答	 3.5%

A 問 5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（1 つを選択）【n=287】

「60代」が36.6%で最も多く、「70代」が26.1%が続いています。主な介護者は高齢層に偏る傾向がみられることから、介護者自身の高齢化を踏まえた支援の充実が求められます。

20歳未満	0.0%
20代	0.0%
30代	1.4%
40代	2.8%
50代	19.5%
60代	36.6%
70代	26.1%
80歳以上	11.8%
わからない	0.0%
無回答	1.7%

A 問 6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（複数選択可）【n=287】

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 84.0%で最も多く、「食事の準備（調理等）」が 76.0%で続いています。家事全般や食事の準備が多くの方にとって主要な支援内容となっているため、これらの日常的な支援を充実させるための環境整備が今後も重要になります。

日中の排泄	27.5%
夜間の排泄	23.3%
食事の介助（食べる時）	16.4%
入浴・洗身	25.1%
身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	24.4%
衣服の着脱	38.0%
屋内の移乗・移動	23.0%
外出の付き添い、送迎等	70.7%
服薬	47.0%
認知症状への対応	27.9%
医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）	12.5%
食事の準備（調理等）	76.0%
その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）	84.0%
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	64.5%
その他	1.4%
わからない	0.0%
無回答	1.0%

A 問 7 ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）【n=287】

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 64.5%で最も多く、「主な介護者が仕事を辞めた（転職を除く）」が 6.6%で続いています。最も少ないのは「主な介護者以外の家族・親族が転職した」で 0.7%です。介護による離職や転職の影響を抑えるためにも、家族への就労支援や介護と仕事の両立支援策の充実が重要と考えられます。

主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）	6.6%
主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）	1.0%
主な介護者が転職した	4.2%
主な介護者以外の家族・親族が転職した	0.7%
介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	64.5%
わからない	3.8%
無回答	19.2%

※「辞めた」は、自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

A 問 8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください（複数選択可）【n=347】

「利用していない」が 51.3%で最も多くなっています。利用しているサービスでは、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 12.7%で最も多く、「配食」「外出同行（通院、買い物など）」がそれぞれ 12.1%で続いています。全体として利用は半数未満にとどまっていますが、移動支援や日常生活を支えるサービスには一定のニーズがあることがうかがえます。今後は、必要な方が適切な支援につながるよう、サービスの周知や利用しやすい体制づくりを進める必要があります。

配食	12.1%
調理	7.8%
掃除・洗濯	11.0%
買い物（宅配は含まない）	10.1%
ゴミ出し	10.7%
外出同行（通院、買い物など）	12.1%
移送サービス（介護・福祉タクシー等）	12.7%
見守り、声かけ	8.6%
サロンなどの定期的な通いの場	8.1%
その他	5.2%
利用していない	51.3%
無回答	9.5%

※総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。

A 問 9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（複数選択可）【n=347】

「特になし」が 34.3%で最も多く、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 25.9%で続いています。最も少ないのは「その他」で 4.9%です。多様なサービスへのニーズが見られる一方、「特になし」の割合も高いため、今後は必要性の掘り下げや個別の支援希望の把握が重要となります。

配食	15.3%
調理	13.3%
掃除・洗濯	13.3%
買い物（宅配は含まない）	11.5%
ゴミ出し	11.8%
外出同行（通院、買い物など）	21.6%
移送サービス（介護・福祉タクシー等）	25.9%
見守り、声かけ	17.0%
サロンなどの定期的な通いの場	10.7%
その他	4.9%
特になし	34.3%
無回答	8.4%

**A 問 10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください
(1つを選択) 【n=347】**

「入所・入居は検討していない」が 72.3%で最も多く、「入所・入居を検討している」が 19.3%が続いています。「すでに入所・入居申し込みをしている」は 4.0%となっています。入所・入居を具体的に進めている方は少ない状況です。今後は、必要な方が適切に検討できるよう、情報提供や相談支援の充実が課題です。

入所・入居は検討していない	 72.3%
入所・入居を検討している	 19.3%
すでに入所・入居申し込みをしている	 4.0%
無回答	 4.3%

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

A 問 11 ご本人が、現在抱えている傷病について、ご回答ください（複数選択可）
【n=347】

「認知症」が 27.4%で最も多く、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が 22.8%が続いています。最も少ないのは「難病（パーキンソン病を除く）」で 0.9%です。認知症や筋骨格系疾患への支援や予防対策を強化しつつ、幅広い疾患に対応できる体制づくりが求められます。

脳血管疾患（脳卒中）	10.1%
心疾患（心臓病）	17.9%
悪性新生物（がん）	6.1%
呼吸器疾患	6.3%
腎疾患（透析）	4.9%
筋骨格系疾患（骨粗しょう症、 脊柱管狭窄症等）	22.8%
膠原病（関節リウマチ含む）	3.2%
変形性関節疾患	12.1%
認知症	27.4%
パーキンソン病	3.2%
難病（パーキンソン病を除く）	0.9%
糖尿病	15.0%
眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を 伴うもの）	19.6%
その他	15.0%
なし	4.3%
わからない	2.0%
無回答	4.6%

A 問 12 ご本人は、現在、訪問診療を利用していますか（1 つを選択）【n=347】

「利用していない」が 85.9%で最も多く、「利用している」が 9.2%が続いています。利用率が低いことから、サービスの認知向上や利用促進のための情報提供や利用しやすい環境づくりが今後の課題となりそうです。

利用している	9.2%
利用していない	85.9%
無回答	4.9%

※訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません。

A 問 13 現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか（1 つを選択）【n=347】

「利用している」が 62.2%で最も多く、「利用していない」が 35.2%が続いています。今後は「利用していない」と回答した層への周知や利便性向上に向けた取組みが求められます。

利用している	62.2%
利用していない	35.2%
無回答	2.6%

A 問 14 【問 13 で「利用していない」を回答した方】介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（複数選択可）【n=122】

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 29.5%で最も多く、「その他」が 26.2%が続いています。今後は、利用を控える理由の多様性を踏まえ、個別の状況に応じた情報提供や支援策を検討することが重要です。

現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	29.5%
本人にサービス利用の希望がない	18.0%
家族が介護をするため必要ない	11.5%
以前、利用していたサービスに不満があった	0.0%
利用料を支払うのが難しい	2.5%
利用したいサービスが利用できない、身近にない	0.0%
住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	4.1%
サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない	9.0%
その他	26.2%
無回答	9.8%

B 票 主な介護者について

B 問 1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（1つを選択） 【n=287】

「働いていない」が47.7%で最も多く、「フルタイムで働いている」が23.7%、「パートタイムで働いている」が18.1%となっています。主な介護者では、働いていない方が多い一方で、就労している方も一定数みられます。今後は、就労状況に応じて、介護と仕事の両立を支える支援の充実が課題です。

フルタイムで働いている	 23.7%
パートタイムで働いている	 18.1%
働いていない	 47.7%
主な介護者に確認しないと、わからない	 1.0%
無回答	 9.4%

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。

B 問 2 【B 問 1 で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方】主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等を行っていますか（複数選択可）【n=120】

「特に行っていない」が 42.5%で最も多く、「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」が 29.2%で続いています。介護と就労の両立支援策について、さらなる周知や多様な働き方の導入が求められます。

特に行っていない	42.5%
介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている	29.2%
介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている	20.0%
介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている	1.7%
介護のために、上記以外の調整をしながら、働いている	12.5%
主な介護者に確認しないと、わからない	0.8%
無回答	0.8%

B 問 3 【B 問 1 で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方】主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（3 つまで選択可）【n=120】

勤め先からの支援としては、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」と「介護をしている従業員への経済的な支援（介護手当・扶養手当等）」がともに 26.7%で最も多く、次いで「特にない」が 23.3%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 21.7%となっています。制度面と経済面の支援に対するニーズが比較的高いことがうかがえます。今後は、介護休業制度の充実や経済的支援に加え、柔軟な働き方を支える職場環境の整備が課題です。

自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	10.0%
介護休業・介護休暇等の制度の充実	26.7%
制度を利用しやすい職場づくり	16.7%
労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）	21.7%
働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）	5.8%
仕事と介護の両立に関する情報の提供	3.3%
介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	5.0%
介護をしている従業員への経済的な支援（介護手当・扶養手当等）	26.7%
その他	0.8%
特にない	23.3%
主な介護者に確認しないと、わからない	5.8%
無回答	7.5%

B 問 4 【B 問 1 で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方】主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1 つを選択）【n=120】

「問題はあるが、何とか続けていける」が 52.5%で最も多く、「問題なく、続けていける」が 23.3%で続いています。最も少ないのは「続けていくのは、かなり難しい」で 2.5%です。多くの方が困難を感じつつも継続している状況がうかがえるため、支援や相談体制の充実が求められます。

問題なく、続けていける	23.3%
問題はあるが、何とか続けていける	52.5%
続けていくのは、やや難しい	9.2%
続けていくのは、かなり難しい	2.5%
主な介護者に確認しないと、わからない	2.5%
無回答	10.0%

B 問 5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（3 つまで選択可）【n=287】

「夜間の排泄」が 25.1%で最も多く、「認知症状への対応」が 24.7%が続いています。最も少ないのは「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」で 2.1%です。夜間の排泄や認知症状への対応が多く挙げられていることから、これらに対する支援策や負担軽減の工夫が求められます。

日中の排泄	16.4%
夜間の排泄	25.1%
食事の介助（食べる時）	4.2%
入浴・洗身	23.0%
身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	2.1%
衣服の着脱	4.5%
屋内の移乗・移動	11.8%
外出の付き添い、送迎等	18.5%
服薬	4.9%
認知症状への対応	24.7%
医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）	3.5%
食事の準備（調理等）	14.6%
その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）	10.8%
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	5.6%
その他	5.6%
主な介護者に確認しないと、わからない	2.4%
無回答	16.7%
不安に感じていることは、特にない	7.0%

第3部 介護人材実態調査

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、市の高齢者の状況等を的確に把握し、取り組むべき課題や高齢者福祉施策の方向性、サービス目標量等を定める、伊賀市第8次高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画を策定することを目的に実施したものです。

2 調査の方法

- ② 調査対象地域：伊賀市全域
- ② 調査対象者：伊賀市にある介護サービス事業所及び従業員
- ③ 調査期間：令和7年12月～令和8年3月
- ④ 調査方法：インターネット調査

3 配布・回収数

種別	有効配布数	有効回答数	有効回答率
介護施設・事業所		3	60.8%
通所サービス・施設サービスの介護職員			
訪問介護を行う介護職員			

4 報告書の見方（注意事項）

- ① 文中のn数（number of cases）は、回答者数を表しています。
- ② 調査結果（グラフおよび表中）の比率は、その設問の回答者数（n数）を分母として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示しています。したがって、端数処理のため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問については、その設問の回答者数（n数）を分母として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ④ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- ⑤ 参考として代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答数の少ない属性についてのコメントは控えている場合があります。

Ⅱ. 伊賀市介護保険事業計画に係る介護人材実態調査【介護施設・事業所用】

問１ 該当するサービス種別を選択してください。

「居宅介護支援」が18.6%で最も多く、「通所介護」が16.9%が続いています。最も少ないのは「訪問入浴介護」で0.0%です。居宅介護支援や通所介護の利用が多い一方、訪問入浴介護の利用が少ない状況から、利用者ニーズやサービス提供体制のバランスを見直すことが今後の課題となりそうです。

居宅介護支援	18.6%
通所介護	16.9%
認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	15.3%
地域密着型通所介護	8.5%
特別養護老人ホーム (地域密着型含む)	8.5%
通所リハビリテーション	6.8%
介護老人保健施設	5.1%
訪問介護	5.1%
訪問看護	5.1%
養護老人ホーム	5.1%
特定施設入居者生活介護	3.4%
認知症対応型通所介護	1.7%

問２ 介護施設・事業所名を入力してください。

(省略)

問３. ご担当者氏名を入力してください。

(省略)

問4 貴介護施設・事業所に従事する介護職員・看護職員の年齢層の人数をご記入ください。

介護職員は、常勤は40代の人が29.9%で最も多く、30代が21.8%が続いています。40代以下を合計すると、常勤の介護職員は6割以上を49歳以下が占めています。一方、非常勤の介護職員は60代が28.0%で最も多く、40代が20.9%が続いています。30代以下の人が14.9%いる一方、70代以上の人でも2割近くいます。常勤では比較的若い世代を中心とした構成となっているのに対し、非常勤では高年齢層の割合が高く、年代の幅が広いことが特徴としてみられます。特に非常勤では、60代以上の人材が重要な役割を担っている状況がうかがえます。

介護職員【常勤】

10代	1.1%
20代	13.7%
30代	21.8%
40代	29.9%
50代	18.7%
60代	13.3%
70代	1.6%
80代以上	0.0%

介護職員【非常勤】

10代	0.5%
20代	1.9%
30代	10.9%
40代	20.9%
50代	20.4%
60代	28.0%
70代	17.1%
80代以上	0.5%

看護職員

常勤の看護職員は50代が31.5%で最も多く、40代が24.7%で続き、60代が23.6%と僅差が続いています。一方、70代以上は7.9%となっています。非常勤の看護職員は60代が45.5%と半数近くを占め、70代が19.7%が続いています。非常勤の看護職員は60代が45.5%と半数近くを占め、70代が19.7%が続いています。このことから、常勤では比較的幅広い年代で構成されている一方、非常勤では高年齢層に大きく偏っている傾向がみられます。特に非常勤においては60代以上が多数を占めており、今後の人材確保や継続的なサービス提供を考えるうえでは、若年層や中堅層の確保・定着に向けた取組が重要になると考えられます。

看護職員【常勤】

10代	0.0%
20代	4.5%
30代	7.9%
40代	24.7%
50代	31.5%
60代	23.6%
70代	7.9%
80代以上	0.0%

看護職員【非常勤】

10代	0.0%
20代	1.5%
30代	9.1%
40代	10.6%
50代	13.6%
60代	45.5%
70代	19.7%
80代以上	0.0%

問5 貴介護施設・事業所に従事する職員の資格ごとの人数をご記入ください。

資格職員人数（常勤）

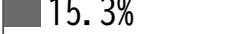
介護福祉士	0人	■ 6.8%
	1～3人	■ 44.1%
	4～10人	■ 35.6%
	11～19人	■ 6.8%
	20人以上	■ 6.8%
介護職員実務者研修修了者	0人	■ 66.1%
	1～3人	■ 30.5%
	4～10人	■ 1.7%
	20人以上	■ 1.7%
介護職員初任者研修修了者	0人	■ 61.0%
	1～3人	■ 28.8%
	4～10人	■ 8.5%
	20人以上	■ 1.7%
無資格の介護職員	0人	■ 72.9%
	1～3人	■ 20.3%
	4～10人	■ 3.4%
	11～19人	■ 3.4%
介護支援専門員	0人	■ 40.7%
	1～3人	■ 47.5%
	4～10人	■ 11.9%
保健師	0人	■ 100.0%
看護師	0人	■ 61.0%
	1～3人	■ 30.5%
	4～10人	■ 6.8%
	11～19人	■ 1.7%
准看護師	0人	■ 81.4%
	1～3人	■ 15.3%
	4～10人	■ 3.4%
医師	0人	■ 91.5%
	1～3人	■ 8.5%

資格職員人数（常勤）つづき

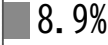
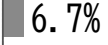
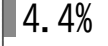
歯科医師	0人	 100.0%
歯科衛生士	0人	 100.0%
薬剤師	0人	 100.0%
管理栄養士	0人	 78.0%
	1～3人	 22.0%
栄養士	0人	 94.9%
	1～3人	 5.1%
理学療法士	0人	 86.4%
	1～3人	 10.2%
	4～10人	 3.4%
作業療法士	0人	 84.7%
	1～3人	 15.3%
言語聴覚士	0人	 96.6%
	1～3人	 3.4%
精神保健福祉士	0人	 96.6%
	1～3人	 3.4%
社会福祉士	0人	 72.9%
	1～3人	 27.1%
事務職員	0人	 67.8%
	1～3人	 28.8%
	4～10人	 3.4%
運転手	0人	 91.5%
	1～3人	 5.1%
	4～10人	 3.4%
その他	0人	 84.7%
	1～3人	 10.2%
	4～10人	 5.1%

資格職員人数（非常勤）

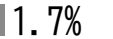
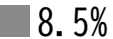
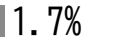
介護福祉士	0人	32.2%
	1～3人	54.2%
	4～10人	11.9%
	20人以上	1.7%
介護職員実務者研修修了者	0人	84.7%
	1～3人	15.3%
介護職員初任者研修修了者	0人	74.6%
	1～3人	20.3%
	4～10人	1.7%
	11～19人	3.4%
無資格の介護職員	0人	67.8%
	1～3人	25.4%
	4～10人	6.8%
介護支援専門員	0人	79.7%
	1～3人	20.3%
保健師	0人	98.3%
	1～3人	1.7%
看護師	0人	54.2%
	1～3人	42.4%
	4～10人	3.4%
准看護師	0人	72.9%
	1～3人	27.1%
医師	0人	89.8%
	1～3人	10.2%

歯科医師	0人	 98.3%
	1～3人	 1.7%
歯科衛生士	0人	 100.0%
薬剤師	0人	 100.0%
管理栄養士	0人	 100.0%
栄養士	0人	 100.0%
理学療法士	0人	 91.5%
	1～3人	 6.8%
	4～10人	 1.7%
作業療法士	0人	 100.0%
言語聴覚士	0人	 94.9%
	1～3人	 5.1%
精神保健福祉士	0人	 100.0%
社会福祉士	0人	 100.0%
事務職員	0人	 84.7%
	1～3人	 15.3%
運転手	0人	 67.8%
	1～3人	 28.8%
	4～10人	 3.4%
その他	0人	 78.0%
	1～3人	 13.6%
	4～10人	 8.5%

問 6 貴介護施設・事業所に従事する外国人の人数を、「EPA」、「技能実習」、「在留資格『介護』」、「特定技能」の資格別に、それぞれご記入下さい

EPA	0人		100.0%
技能実習	0人		86.7%
	1人		2.2%
	2～4人		8.9%
	5人以上		2.2%
在留資格「介護」	0人		97.8%
	2～4人		2.2%
特定技能	0人		88.9%
	1人		6.7%
	2～4人		4.4%

問7 過去1年間（令和6年4月1日～令和7年3月31日）の介護職員（介護福祉士・介護職員実務者研修修了者・介護職員初任者研修修了者・無資格の介護職員）の採用者数と離職者数を、常勤・非常勤別にご記入ください。外国人人材も含めてご回答ください。

常勤職員	採用者数	0人	 61.0%
		1人	 15.3%
		2～3人	 13.6%
		4～6人	 10.2%
	離職者数	0人	 54.2%
		1人	 30.5%
		2～3人	 15.3%
非常勤職員	採用者数	0人	 66.1%
		1人	 22.0%
		2～3人	 10.2%
		4～6人	 1.7%
	離職者数	0人	 72.9%
		1人	 16.9%
		2～3人	 8.5%
		4～6人	 1.7%

問 8 現在、貴施設・事業所における必要な人員に対して、どの程度充足していますか？

「やや不足している」が 45.8%で最も多く、「大幅に不足している」が 23.7%で続いています。最も少ないのは「無回答」で 0.0%です。全体として不足感を抱いている回答が多いため、必要な支援や資源の拡充を検討することが今後の課題となります。

やや充足している	22.0%
やや不足している	45.8%
十分に充足している	8.5%
大幅に不足している	23.7%

問 9 採用に関する課題をご回答ください。（あてはまるもの 3 つまで）

「応募者数が不足している」が 78.0%で最も多く、「賃金や待遇面で他施設と競争が難しい」が 33.9%で続いています。最も少ないのは「その他」で 0.0%です。応募者確保のため、採用活動の工夫や待遇改善など多角的な対策を検討することが重要です。

応募者数が不足している	78.0%
賃金や待遇面で他施設と競争が難しい	33.9%
勤務条件（勤務時間・シフトなど）が応募者の希望に合わない	27.1%
応募者の経験・スキルが不足している	25.4%
広報・求人活動が十分にできていない	15.3%
採用面接や選考にかかる時間・人手が不足している	1.7%
その他	0.0%
特に課題は感じていない	10.2%

問 10 人材定着に関する課題をご回答ください。（あてはまるもの 3 つまで）

「仕事の負担やストレスが大きい」が 55.9%で最も多く、「賃金・待遇に不満がある」が 49.2%で続いています。最も少ないのは「その他」で 0.0%です。仕事の負担やストレスの軽減や賃金・待遇の改善が、職場の課題解決に向けた重要な対応策として検討されます。

仕事の負担やストレスが大きい	55.9%
賃金・待遇に不満がある	49.2%
キャリアアップや研修の機会が不足している	15.3%
職場環境（設備や労働環境）が整っていない	11.9%
離職率が高い	6.8%
長時間労働や夜勤が多い	5.1%
職場の人間関係が悪い	3.4%
その他	0.0%
特に課題は感じていない	20.3%

問 11 人材確保に関して市に期待するサポートをご回答ください。
(あてはまるもの3つまで)

「職場環境改善のための助成金や補助金の支給」が 61.0%で最も多く、「介護職員の処遇改善（賃金引上げ等）に関する支援・助言」が 54.2%が続いています。最も少ないのは「その他」で 0.0%です。金銭的な支援や処遇の改善が重視されており、現場の働きやすさ向上への直接的な取り組みが今後も重要となりそうです。

職場環境改善のための助成金や補助金の支給	61.0%
介護職員の処遇改善（賃金引上げ等）に関する支援・助言	54.2%
求人情報の広報支援（市の広報誌やウェブサイトでの求人掲載など）	30.5%
介護職員の資格取得やスキルアップのための研修・講座の提供	25.4%
若年層や未経験者の介護職への就職促進キャンペーンの実施	23.7%
採用説明会や合同企業説明会の開催支援	16.9%
新規採用者向けの就職支援・相談窓口の設置	13.6%
地域住民や学生への介護職の魅力発信支援	13.6%
離職防止のためのメンタルヘルスケアや相談体制の充実	5.1%
その他	0.0%

問 12 貴事業所では、職員を対象とした「人権に関する研修」を実施していますか。

「定期的実施している」が 52.5%で最も多く、「必要に応じて実施している」が 45.8%で続いています。最も少ないのは「実施していない」で 0.0%です。多くの回答が定期的または必要に応じて実施していることから、今後も継続的な実施体制の維持や実施頻度の最適化が重要となりそうです。

定期的実施している	52.5%
必要に応じて実施している	45.8%
実施していない	0.0%
わからない	1.7%

問 13 実施している場合、研修内容として含まれているものをお選びください。（あてはまるものすべて）

「高齢者虐待防止法に基づく研修」が 93.2%で最も多く、「利用者の尊厳・プライバシーの尊重」が 81.4%で続いています。最も少ないのは「該当なし/実施していない」で 0.0%です。多くの施設で複数の人権研修が行われており、今後は実施内容のさらなる充実や職員間の浸透を図ることが求められます。

高齢者虐待防止法に基づく研修	93.2%
利用者の尊厳・プライバシーの尊重	81.4%
ハラスメント防止	66.1%
差別・偏見への理解	44.1%
職員間の人権意識向上	28.8%
その他	3.4%
該当なし/実施していない	0.0%

問 14 貴事業所の職員は、日常業務において利用者の人権を意識して行動できていると感じますか。

「非常にそう思う」が 81.4%で最も多く、「無回答」が 13.6%が続いています。最も少ないのは「全くそう思わない」で 0.0%です。多くの方が肯定的に感じている一方で、無回答の割合も一定数みられるため、さらなる理解促進や情報提供が必要と考えられます。

非常にそう思う	 81.4%
ある程度そう思う	 3.4%
あまりそう思わない	 1.7%
全くそう思わない	0.0%

Ⅲ 介護保険事業計画策定に係る介護人材実態調査【対象者：通所サービス・施設サービスの介護職員】

問1 あなたが従事する勤務先の介護事業所の種別を選択してください。

「特別養護老人ホーム（地域密着型を含む）」が 34.0%で最も多く、「通所介護」が 23.1%が続いています。利用施設の偏りが見られるため、他のサービスの利用促進や選択肢の多様化を検討することが重要です。

特別養護老人ホーム （地域密着型を含む）	34.0%
通所介護	23.1%
介護老人保健施設	14.6%
地域密着型通所介護	8.0%
特定施設入居者生活介護	8.0%
認知症対応型共同生活介護 （グループホーム）	5.2%
養護老人ホーム	3.3%
認知症対応型通所介護	1.9%
住宅型有料老人ホーム	0.5%
通所リハビリテーション	1.4%

問2. あなたが従事する勤務先の介護施設・事業所名を入力ください。

（省略）

問3 あなたが従事する勤務先の介護事業所での勤務年

勤務年数では「10年以上」が39.2%で最も多く、次いで「5年以上10年未満」が23.1%となっており、全体の6割以上を5年以上の職員が占めています。このことから、一定程度の経験を有する職員が多く、安定した人材基盤が形成されていることがうかがえます。一方で、「1年未満」や「1年以上～3年未満」もそれぞれ1割以上を占めており、新規人材の流入も一定程度見られます。

1年未満	 12.7%
1年以上～3年未満	 14.2%
3年以上5年未満	 10.4%
5年以上10年未満	 23.1%
10年以上	 39.2%

問4 資格の取得、研修の修了の状況

資格では「介護福祉士」が69.8%と最も多く、約7割を占めています。次いで「初任者研修修了」が18.9%、「実務者研修修了」が16.0%となっており、段階的に資格を取得した職員が一定数配置されていることがうかがえます。また、看護師・准看護師も一部含まれており、多職種による体制が構築されています。

介護福祉士（認定介護福祉士を含む）	 69.8%
介護職員初任者研修修了 または（旧）ヘルパー2級	 18.9%
介護職員実務者研修修了 または（旧）介護職員基礎研修修了 または（旧）ヘルパー1級	 16.0%
看護師	 4.2%
准看護師	 2.4%
その他	 13.2%

問5 雇用形態

「常勤職員」が78.3%で最も多く、「非常勤職員」が20.8%が続いています。常勤職員の割合が高いことから、組織の安定した雇用形態が中心となっている現状がうかがえます。非常勤職員の活用や多様な雇用形態の検討が今後の課題となりそうです。

常勤職員	 78.3%
非常勤職員	 20.8%

問6 性別

「女性」が69.3%で約7割を占めています。

男性	 26.4%
女性	 69.3%
その他・答えたくない	 3.8%

問7 年齢

「40代」が27.8%で最も多く、「30代」が23.6%が続いています。中心的な年齢層が30代から40代に集中していることが特徴です。現場では中堅層が主な担い手となっており、今後は若手人材の確保とともに、経験の蓄積を次世代へ継承していく取組が求められると考えられます。

10代	0.9%
20代	9.4%
30代	23.6%
40代	27.8%
50代	21.7%
60代	12.7%
70代	2.8%
80代以上	0.0%

問 8 過去 1 週間の勤務時間（残業時間を含む。休憩時間は除く。）
回答例（○時間）

「31～40 時間」が 53.30%で最も多く、「41～50 時間」が 14.15%、「1～10 時間」が 15.57%で続いています。週 30 時間以上勤務する層が全体の約 7 割を占めており、比較的長時間勤務の職員が中心となっていることがうかがえます。一方で、短時間勤務の職員も一定数存在しており、多様な働き方が併存している状況です。今後は、職員の負担軽減と柔軟な勤務体制の両立が求められると考えられます。

1～10時間	 15.6%
11～20時間	 3.3%
21～30時間	 8.0%
31～40時間	 53.3%
41～50時間	 14.2%
50時間以上	 1.4%
無回答	 4.2%

問 9 介護職員として働く中で魅力を感じること（複数選択可）

『利用者や家族から感謝されること』が 55.2%で最も多く、『人の役に立っている実感が持てること』が 12.3%が続いています。いずれも他者からの評価や社会的貢献に関する項目が上位を占めています。

利用者や家族から感謝されること	55.2%
人の役に立っている実感が持てること	12.3%
職場の人間関係が良好で働きやすいこと	8.5%
仕事を通じて専門的な知識や技術が身につくこと	7.1%
安定した雇用や給与があること	3.8%
勤務時間やシフトの柔軟性があること	2.8%
キャリアアップや資格取得の支援があること	0.0%
地域社会に貢献できること	0.9%

問 10 介護職員として働く中で不満に感じること（複数選択可）

「給与が低い（業務量と見合わない）」が 55.2%で最も多く、「身体的・精神的に仕事がきつい」が 38.7%で続いています。いずれも業務負担や処遇に関する課題が上位となっており、働きやすさやモチベーションに直結する要素に関心が集まっています。

給与が低い （業務量と見合わない）	55.2%
身体的・ 精神的に仕事がきつい	38.7%
社会的評価が低いと感じる	34.4%
休暇が取りにくい	29.7%
職場の人間関係	18.9%
身内のケア（介護・看護・ 育児等）との両立が難しい	9.9%
利用者やその家庭との人間 関係	7.5%
キャリアアップの機会が不 十分	6.1%
勤務時間が長い	6.6%
その他	1.4%
特になし	15.1%

問 11 あなたは職員を対象とした「人権に関する研修」を受けていますか。

「定期的に受けている」が 45.3%で最も多く、「不定期だが受けている」が 34.0%で続いています。いずれも継続的な受講経験がある人が上位を占めており、一定の頻度で受講を行う傾向が見受けられます。

定期的に受けている	45.3%
不定期だが受けている	34.0%
受けたことがない	8.5%
わからない	11.3%

問 12 受けている場合、研修内容として含まれているものをお選びください。（あてはまるものすべて）

「高齢者虐待防止法に基づく研修」が 79.7%で最も多く、「利用者の尊厳・プライバシーの尊重」が 77.8%で続いています。いずれも利用者の権利擁護や安全確保に直結する内容であり、基本的な人権配慮に関する研修が広く実施されていることがうかがえます。また、ハラスメント防止や差別・偏見への理解も半数以上で取り上げられており、職場内外の人権意識の向上が図られています。今後は、こうした内容を実践に結びつける継続的な取組が求められると考えられます。

高齢者虐待防止法に基づく研修	79.7%
利用者の尊厳・プライバシーの尊重	77.8%
ハラスメント防止	62.3%
差別・偏見への理解	51.4%
職員間の人権意識向上	38.7%
その他	1.9%
該当なし/受けていない	6.6%

問 13 貴事業所の職員は、日常業務において利用者の人権を意識して行動できていると感じますか。

「ある程度そう思う」が 70.3%で最も多く、「非常にそう思う」が 23.6%が続いています。多くの回答者が肯定的な意見を持ちながらも、中間的な評価に留まっている点が特徴となっています。このことから、現場では一定の評価が浸透しているものの、さらなる納得感の向上が求められる状況であることがうかがえます。

非常にそう思う	23.6%
ある程度そう思う	70.3%
あまりそう思わない	5.2%
全くそう思わない	0.9%

IV 介護保険事業計画策定に係る介護人材実態調査【対象者：訪問介護を行う介護職員】

問1 あなたが従事する勤務先の介護事業所の種別を選択してください。

「居宅介護支援」が46.7%で最も多く、「訪問介護（訪問型サービスを含む）」が30.0%が続いています。

居宅介護支援	46.7%
訪問介護（訪問型サービスを含む）	30.0%
小規模多機能型居宅介護	16.7%
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3.3%
夜間対応型訪問介護	3.3%
無回答	0.0%

問2. あなたが従事する勤務先の介護事業所名を入力ください。

(省略)

問3 あなたが従事する勤務先の介護事業所での勤務年数

「10年以上」が56.7%で最も多く、「5年以上10年未満」が16.7%が続いています。5年以上の勤務者が全体の7割以上を占めており、経験豊富な職員が中心となっていることがうかがえます。一方で、3年未満の職員も2割を占めており、新規人材の流入も一定程度見られます。今後は、ベテラン職員の知識や技術の継承を図るとともに、若手職員の定着に向けた取組が求められると考えられます。

1年未満	 10.0%
1年以上～3年未満	 10.0%
3年以上5年未満	 6.7%
5年以上10年未満	 16.7%
10年以上	 56.7%
無回答	0.0%

問4 資格の取得、研修の修了の状況

「介護福祉士（認定介護福祉士を含む）」が60.0%で最も多く、「介護支援専門員」が53.3%が続いています。いずれも専門性の高い資格を有する職員が半数以上を占めており、訪問介護において高度な知識や経験を持つ人材が中心となっていることがうかがえます。また、「介護職員初任者研修修了」も26.7%と一定数存在しており、多様な資格レベルの職員で構成されています。

介護福祉士（認定介護福祉士を含む）	60.0%
介護支援専門員	53.3%
介護職員初任者研修修了 または（旧）ヘルパー2級	26.7%
介護職員実務者研修修了 または（旧）介護職員基礎研修修了 または（旧）ヘルパー1級	6.7%
看護師	0.0%
准看護師	0.0%
その他	3.3%
無回答	0.0%

問5 雇用形態

「常勤職員」が73.3%で大半を占めています。

常勤職員	73.3%
非常勤職員	26.7%
無回答	0.0%

問 6 性別

「女性」が 73.3%で 7 割を占めています。

男性	 26.7%
女性	 73.3%
その他・答えたくない	0.0%
無回答	0.0%

問 7 年齢

『40 代』が 33.3%で最も多く、『50 代』が同じく 33.3%が続いています。中高年層が大きな割合を占めていることが特徴です。

10代	0.0%
20代	0.0%
30代	 3.3%
40代	 33.3%
50代	 33.3%
60代	 23.3%
70代	 3.3%
80代以上	 3.3%
無回答	0.0%

問 8 過去 1 週間の勤務時間（残業時間を含む。休憩時間は除く。）
回答例（○時間）

「21～40 時間」が 56.67%で最も多く、「41～60 時間」が 16.67%が続いています。週 20 時間以上勤務する職員が全体の 7 割以上を占めており、一定の勤務時間を担う人材が中心となっていることがうかがえます。一方で、20 時間未満の短時間勤務も一定数存在しており、多様な働き方が見られます。

0時間	 3.3%
1～20時間	 6.7%
21～40時間	 56.7%
41～60時間	 16.7%
61～80時間	 3.3%
無回答	 13.3%

問 9. 「介護給付（要介護１～５）」による訪問時間を５分単位でお答えください。

		身体介護	生活援助 (その他)	生活援助 (掃除)	生活援助 (調理・配膳)	生活援助 (買い物)
月曜日	0分	57.9%	88.2%	68.8%	81.3%	77.8%
	～10分	5.3%				
	～30分	10.5%		25.0%	12.5%	
	～60分	26.3%	11.8%	6.3%	6.3%	22.2%
火曜日	0分	55.6%	94.1%	75.0%	87.5%	88.2%
	～30分	16.7%		18.8%	12.5%	
	～60分	27.8%	5.9%	6.3%		11.8%
水曜日	0分	66.7%	82.4%	81.3%	81.3%	94.1%
	60分超				6.3%	
	～30分	16.7%	5.9%	12.5%	12.5%	5.9%
	～60分	16.7%	11.8%	6.3%		
木曜日	0分	50.0%	88.2%	62.5%	75.0%	61.1%
	60分超	11.1%				5.6%
	～10分	5.6%				5.6%
	～30分	5.6%		25.0%	18.8%	5.6%
	～60分	27.8%	11.8%	12.5%	6.3%	22.2%
金曜日	0分	50.0%	94.1%	81.3%	70.6%	88.2%
	60分超	11.1%			5.9%	5.9%
	～10分	11.1%				
	～30分	11.1%		12.5%	17.6%	
	～60分	16.7%	5.9%	6.3%	5.9%	5.9%
土曜日	0分	44.4%	88.2%	87.5%	87.5%	94.1%
	60分超	5.6%				
	～10分	5.6%				
	～30分	5.6%	5.9%	12.5%	12.5%	5.9%
	～60分	38.9%	5.9%			
日曜日	0分	47.4%	94.1%	93.8%	93.8%	94.1%
	～10分	5.3%				
	～30分	15.8%		6.3%	6.3%	
	～60分	31.6%	5.9%			5.9%

問 10. 介護予防給付（要支援１・２）・総合事業による訪問時間を５分単位でお答えください。

		身体介護	生活援助 (その他)	生活援助 (掃除)	生活援助 (調理・配膳)	生活援助 (買い物)
月曜日	0分	87.5%	94.1%	87.5%	93.8%	94.1%
	～30分		5.9%	6.3%	6.3%	
	～60分	12.5%		6.3%		5.9%
火曜日	0分	87.5%	94.1%	93.8%	93.8%	88.2%
	～30分		5.9%		6.3%	
	～60分	12.5%		6.3%		11.8%
水曜日	0分	93.8%	88.2%	87.5%	93.8%	88.2%
	60分超					5.9%
	～10分		5.9%			
	～30分		5.9%	6.3%	6.3%	5.9%
	～60分	6.3%		6.3%		
木曜日	0分	87.5%	94.1%	87.5%	87.5%	94.1%
	～30分	6.3%	5.9%	6.3%	12.5%	
	～60分	6.3%		6.3%		5.9%
金曜日	0分	75.0%	88.2%	93.8%	93.8%	94.1%
	～10分	6.3%	5.9%			
	～30分	6.3%	5.9%		6.3%	
	～60分	12.5%		6.3%		5.9%
土曜日	0分	93.8%	94.1%	93.8%	93.8%	94.1%
	～30分		5.9%	6.3%	6.3%	
	～60分	6.3%				5.9%
日曜日	0分	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 11 介護職員として働く中で魅力を感じること（複数選択可）

『利用者や家族から感謝されること』が 73.3%で最も多く、『人の役に立っている実感が持てること』が 53.3%で続いています。いずれも対人援助に関する直接的な充実感ややりがいに関わる項目が上位を占めている点が特徴です。

利用者や家族から感謝されること	73.3%
人の役に立っている実感が持てること	53.3%
仕事を通じて専門的な知識や技術が身につくこと	50.0%
安定した雇用や給与があること	33.3%
勤務時間やシフトの柔軟性があること	30.0%
職場の人間関係が良好で働きやすいこと	30.0%
地域社会に貢献できること	16.7%
チームで協力して仕事を進めることができること	16.7%
キャリアアップや資格取得の支援があること	10.0%
職場の福利厚生が充実していること	10.0%
その他	0.0%
特にない	3.3%
無回答	3.3%

問 12 介護職員として働く中で不満に感じること（複数選択可）

『給与が低い（業務量と見合わない）』が 50.0%で最も多く、『社会的評価が低いと感じる』が 40.0%で続いています。いずれも待遇や社会的な認知に関する項目が上位を占めており、経済面や評価の面での不満が目立っています。このことから、現場では処遇の改善や社会的な評価向上が中心となっている状況がうかがえ、今後は待遇面や社会的認知の向上に向けた取り組みが求められます。

給与が低い（業務量と見合わない）	50.0%
社会的評価が低いと感じる	40.0%
身体的・精神的に仕事がきつい	26.7%
休暇が取りにくい	13.3%
利用者やその家庭との人間関係	13.3%
勤務時間が長い	10.0%
身内のケア（介護・看護・育児等）との両立が難しい	6.7%
職場の人間関係	3.3%
キャリアアップの機会が不十分	0.0%
その他	3.3%
特になし	13.3%
無回答	6.7%

問 13 あなたは職員を対象とした「人権に関する研修」を受けていますか。

「定期的に受けている」が 56.7%で最も多く、「不定期だが受けている」の 33.3%を合わせると、9 割の人が人権に関する研修を受講しています。

定期的に受けている	56.7%
不定期だが受けている	33.3%
受けたことがない	3.3%
わからない	3.3%
無回答	3.3%

問 14 受けている場合、研修内容として含まれているものをお選びください。（あてはまるものすべて）

問 14『利用者の尊厳・プライバシーの尊重』が 83.3%で最も多く、『高齢者虐待防止法に基づく研修』が 76.7%で続いています。いずれも高齢者の権利保護や人権意識に関する内容が上位を占めており、利用者の基本的な人権や安全な環境づくりへの注目が高いことが示唆されます。このことから、現場では利用者を中心とした人権尊重の姿勢が重視される構造となっていると言えます。

利用者の尊厳・プライバシーの尊重	83.3%
高齢者虐待防止法に基づく研修	76.7%
ハラスメント防止	66.7%
差別・偏見への理解	50.0%
職員間の人権意識向上	40.0%
その他	3.3%
該当なし/受けたことがない	0.0%
無回答	3.3%

問 15 あなたの事業所の職員は、日常業務において利用者の人権を意識して行動できていると感じますか。

「ある程度そう思う」が 66.7%で最も多く、「非常にそう思う」の 30.0%を合わせると 9 割以上の人の人権を意識して行動できていると感じています。

非常にそう思う	30.0%
ある程度そう思う	66.7%
あまりそう思わない	3.3%
全くそう思わない	0.0%
無回答	0.0%